

避難所におけるペット同行避難対策推進の手引き

# 研修・訓練計画例

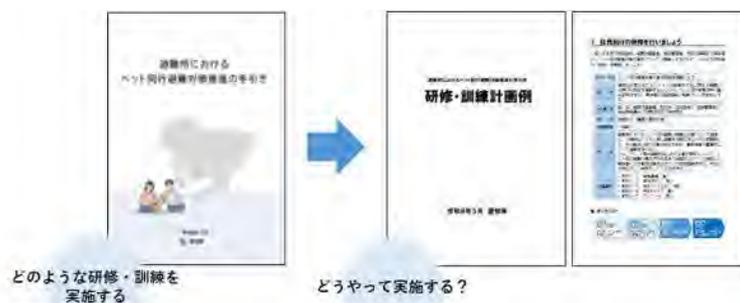
令和8年3月 愛知県

## 研修・訓練計画例の使い方

本計画例は、ペットを受け入れる避難所において、地域の住民が協力してペット同行避難対策を効果的に進めることを目的として作成したものです。「避難所におけるペット同行避難対策推進の手引き（本編）」第4章をもとに、実施する研修や訓練を選択し、その企画や準備から、当日の実施と振り返りまでの進め方を具体的に示しています。

本計画例には、研修や訓練の目的、内容および進め方の一例を示していますが、これらをそのまま使用するのではなく、対象者や規模、地域特性、施設条件などを踏まえ、必要に応じて内容の取捨選択や修正を行ってください。研修や訓練の実施にあたっては、飼い主を含む地域住民、避難所運営者、施設管理者、市町村職員などが連携し、意見交換を行いながら進めることで、実効性を高めることが重要です。

本計画例を活用し、平常時からの備えとして、ペット同行避難に関する理解を深め、体制整備の促進を図ってください。



## 1. 住民向けの研修を行いましょ

飼い主を含む地域住民、避難所運営者、施設管理者、市町村職員など関係者が、ペット同行避難対策の基本について理解するために、次のような（研修）を実施しましょう。

テーマ①	ペット同行避難対策の基本原則を理解しよう
目的	過去の災害におけるペットとの避難や生活に関する課題と対策の必要性を理解するとともに、ペット同行避難対策の基本原則を学び、関係者の役割理解と意識づくりを目的とする。
対象者	飼い主、避難所運営者（町内会・自治会等）、施設管理者、市町村職員などの関係者及び地域住民
形式	研修形式（講義と意見交換）
所要時間	1時間
内容	避難所におけるペット同行避難の問題と対策について説明し、災害時にペットと共に避難する際に生じやすい問題点や、その解決に向けた具体的な対応策、事前準備の重要性について理解を深める。 次に、「ペット同行避難対策における基本原則」として、ペット同行避難の考え方や各主体の役割などについて説明し、関係者による意見交換を行うことで相互理解を深め、今後の対策について検討を行う土台を作る。
付属資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材1-1 実施要領（案）</li> <li>教材1-2 案内チラシ（案）</li> <li>教材1-3 研修カリキュラム（案）</li> <li>教材1-4 研修テキスト（案）</li> <li>教材1-5 アンケート（案）</li> <li>教材1-6 意見交換用台紙</li> </ul>

### ● 進め方の流れ



## STEP 1：研修開催日の前日まで

### 事前準備

研修開催日の前日までに必要な準備を進めます。

#### 1. 実施要領を確認し、研修の対象者に配布する

- 「教材1-1 実施要領（案）」により、研修の目的や内容、スケジュールなどについて確認し、研修をイメージします。
- 「教材1-1 実施要領（案）」を変更・修正し、計画している研修の「実施要領」を完成させます。
- 完成した「実施要領」をもとに「教材1-2 案内チラシ（案）」を活用して「案内チラシ」作成し、研修の対象者へ参加を呼びかけます。

#### 2. 研修テキストを確認し、修正する

- 「教材1-3 研修カリキュラム（案）」により、当日の流れを確認します。
- 「教材1-4 研修テキスト（案）」により、研修の内容や研修の進行に合わせて配布する資料などを確認します。
- 「教材1-5 アンケート（案）」により、収集したい意見を検討します。
- 市町村に関する内容を追加・修正し、「研修カリキュラム」、「研修テキスト」、「アンケート」を完成させます。

#### 3. 機材や文房具を手配・準備する

- 研修で使用する機材や文房具などを準備します。机・椅子のほかに準備すべき機材と文房具などは次のとおりです。

区分	No	用 具	備 考	数 量
資材	1	プロジェクター	パソコンデータの映し出し	1台
	2	スクリーン	パソコンデータの映し出し	1台
	3	パソコン	研修の説明用	1台
	4	接続ケーブル	パソコンとプロジェクターの接続用	1本
	5	マイク	進行者・発表者の発言用	2本
	6	スピーカー	進行者・発表者の発言用	1台
	7	ポインター（指し棒）	スクリーン上に投影した事項の指示	1台
記録	8	デジタルカメラ	記録用	1台
	9	ビデオカメラ	記録用	1台
	10	三脚	記録用	1台
	11	ICレコーダー	記録用	1台

区分	No	用 具	備 考	数 量
ワーク	12	付箋	参加者が意見を書くためのもの	1束/人
	13	意見交換用台紙	教材1-6	班数分
配布物	14	文房具	サインペン、筆記用	一式/人
	15	研修テキスト	教材1-4から作成	1部/人
	16	アンケート	教材1-5から作成	1部/人

#### 4. 研修準備・実施に関する役割を分担する

- 研修の進行をイメージしながら、準備や実施に必要な役割（進行（講師）、受付、記録など）を確認し、当日の担当を決めます。

## STEP 2：研修前日または当日

### 直前準備

研修前日または当日に会場の設営をします。

#### 1. 参加者に配布する資料と参加者の受付名簿を印刷する

- 印刷する資料一覧は以下のとおりです。

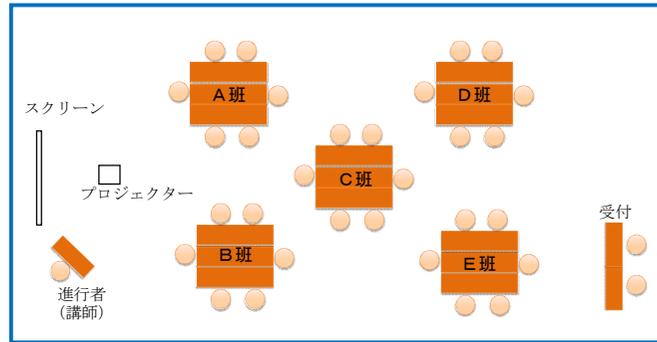
No	印刷物	数 量
1	意見交換用台紙	班数分
2	研修テキスト	参加者数分
3	アンケート	参加者数分

#### 2. 参加者の班分けを行う

- 研修での意見交換をスムーズに行うため、事前に班分けを行います。
- グループ編成は、餉い主、避難所運営者、施設管理者をできるだけ混在させ、さまざまな視点から意見交換が行われるよう配慮します。
- 概ね1班あたり6～7人程度とし、班の全員が発言できる人数編成にします。

#### 3. 研修会場を設営する

- 研修会場のレイアウトイメージは次のとおりです。



研修会場レイアウトイメージ

- ① 机・椅子の設置
- ② プロジェクター、スクリーン、パソコン等の設置  
進行者（講師）が使用するパソコンを配置し、そばにマイクやポインターをセットします。
- ③ 受付の設置
- ④ 事前に配布できる資料、必要な文房具やワーク資料などを机上に用意

## STEP3：研修当日

### 研修

「研修」を実施します。

#### 1. 開会の挨拶

- 開会の挨拶において本研修の目的や研修にあたっての注意事項について説明します。

#### 2. 研修の実施

- 「研修テキスト」およびスライドのノート部分に記載されている読み上げ原稿をもとに、研修を実施します。
- 意見交換においては「教材 1-6 意見交換用台紙」や付箋等を活用し、参加者同士で「飼い主」「避難所運営者」「施設管理者」のそれぞれの立場で災害時にどのようなことが求められると思うか、話し合いを促します。

#### 3. 閉会挨拶、アンケート調査の実施

- 企画・運営者は、閉会の挨拶をした後、参加者に「アンケート」を配布し、回答結果を回収します。

## STEP4：研修実施後

### 改善

教材を改善し、強化・充実を図ります。

#### 1. 研修実施の課題を明らかにする

- 参加者の意見やアンケート結果を集約し、準備・実施上の課題を明らかにします。

#### 2. 教材を改善する

- 課題に対する改善方法を明らかにし、実施要領や研修スライドなどを改善します。

## 2. ワークショップを行いましょ

ペットを受け入れる避難所の関係者で集まり、ワークショップを通じて、受入体制の整備に取り組みましょ。

テーマ②	〇〇避難所におけるペットの受入れ・管理の体制づくり
目的	ペットを受け入れる避難所において、その特性を踏まえた適切な受入れ・管理体制を整理・検討することを目的とする。
対象者	飼い主、避難所運営者（町内会・自治会等）、施設管理者、市町村職員などの関係者
形式	ワークショップ形式 （現場確認とワークショップを通じた意見交換）
所要時間	2時間30分
内容	ペットの飼養場所の選定や、設営・整備方法、運営・管理体制等について、関係者による意見交換を行いながら進める。
付属資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材2-1 実施要領（案）</li> <li>教材2-2 案内チラシ（案）</li> <li>教材2-3 ワークショップカリキュラム（案）</li> <li>教材2-4 ワークショップテキスト（案）</li> <li>教材2-5 飼養場所の評価目安（案）</li> <li>教材2-6 飼養場所の評価目安（事前検討用）</li> <li>教材2-7 アンケート（案）</li> <li>教材2-8 意見交換用台紙</li> </ul>

### ● 進め方の流れ



### STEP1：ワークショップ開催日の前日まで

**事前準備** ワークショップ開催日の前日までに必要な準備を進めます。

#### 1. 実施要領を確認し、ワークショップの対象者に配布する

- 「教材2-1 実施要領（案）」により、ワークショップの目的や内容、スケジュールなどについて確認し、ワークショップをイメージします。
- 「教材2-1 実施要領（案）」を変更・修正し、計画しているワークショップの「実施要領」を完成させます。
- 完成した「実施要領」をもとに「教材2-2 案内チラシ（案）」を活用して「案内チラシ」作成し、ワークショップの対象者へ参加を呼びかけます。

#### 2. ワークショップテキストを確認し、修正する

- 「教材2-3 ワークショップカリキュラム（案）」により、当日の流れを確認します。
- 「教材2-4 ワークショップテキスト（案）」により、ワークショップの内容やワークショップの進行に合わせて配布する資料などを確認します。
- 「教材2-7 アンケート」（案）により、収集したい意見を検討します。
- 市町村に関する内容を追加・修正し、「ワークショップカリキュラム」、「ワークショップテキスト」、「アンケート」を完成させます。

#### 3. 飼養場所の候補を検討する

- ペットの飼養場所については、事前に候補となり得る場所を、「教材2-6 飼養場所の評価目安（事前検討用）」をもとに、選定しておきます。
- 選定にあたっては、明らかに基準を満たさない場所のみを除外し、少しでも検討の余地がある場合は候補場所として残します。（結果は「ワークショップテキスト」に反映します。）

#### 4. 機材や文房具を手配・準備する

- ワークショップで使用する機材や文房具などを準備します。机・椅子のほかに準備すべき機材と文房具などは次のとおりです。

区分	No	用 具	備 考	数 量
資器材	1	プロジェクター	パソコンデータの映し出し	1台
	2	スクリーン	パソコンデータの映し出し	1台
	3	パソコン	ワークショップの説明用	1台
	4	接続ケーブル	パソコンとプロジェクターの接続用	1本
	5	マイク	進行者・発表者の発言用	2本
	6	スピーカー	進行者・発表者の発言用	1台
	7	ポインター（指し棒）	スクリーン上に投影した事項の指示	1台

区分	No	用 具	備 考	数 量
記録	8	デジタルカメラ	記録用	1台
	9	ビデオカメラ	記録用	1台
	10	三脚	記録用	1台
	11	ICレコーダー	記録用	1台
	ワーク	12	既存の避難所開設・運営マニュアル	必要に応じて
13		校地・校舎の平面図	手元資料	班数分
14		「〇〇避難所ペット対応手順書」	資料編1	班数分
19		付箋	参加者が意見を書くためのもの	1束/人
20		意見交換用台紙	ワークで使用。付箋を貼る台紙	班数分
配布物	21	ワークショップテキスト	教材2-4から作成	1部/人
	22	アンケート	教材2-7から作成	1部/人
	23	教材2-5 飼養場所の評価目安	手元資料	1部/人
	24	教材2-6 飼養場所の評価目安（事前検討用）	事務局で検討したもの	1部/人
	25	文房具	サインペン、筆記用	1本/人
	26	バインダー	現地調査用	1個/人

## 5. ワorkshop準備・実施に関する役割を分担する

- ワークショップの進行をイメージしながら、準備や実施に必要な役割（進行（講師）、受付、記録など）を確認し、当日の担当を決めます。

### STEP2：ワークショップ前日または当日

#### 直前準備

ワークショップ前日または当日に会場の設営をします。

## 1. 参加者に配布する資料を印刷する

- 印刷する資料一覧は以下のとおりです。

No	印刷物	数 量
1	既存の避難所開設・運営マニュアル	班数分
2	校地・校舎の平面図	班数分
3	資料編1「〇〇避難所ペット対応手順書」	班数分
4	教材2-8 意見交換用台紙	班数分

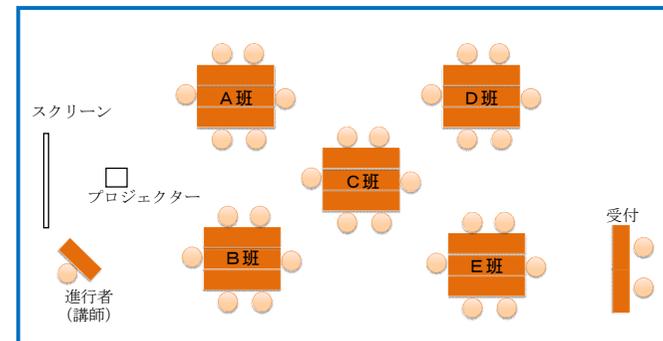
No	印刷物	数 量
5	ワークショップテキスト	参加者数分
6	教材2-5 飼養場所の評価目安	参加者数分
7	教材2-6 飼養場所の評価目安（事前検討用）	班数分
8	アンケート	参加者数分

## 2. 参加者の班分けを行う

- ワークショップでの意見交換をスムーズに行うため、事前に班分けを行います。
- グループ編成は、飼い主、避難所運営者、施設管理者をできるだけ混在させ、さまざまな視点から意見交換が行われるよう配慮します。
- 概ね1班あたり6～7人程度とし、班の全員が発言できる人数編成にします。

## 3. ワorkshop会場を設営する

- ワークショップ会場のレイアウトイメージは次のとおりです。



ワークショップ会場レイアウトイメージ

- ① 机・椅子の設置
- ② プロジェクター、スクリーン、パソコン等の設置  
進行者（講師）が使用するパソコンを配置し、そばにマイクやポインターをセットします。
- ③ 受付の設置
- ④ 事前に配布できる資料、必要な文房具やワーク資料などを机上に用意

## STEP3：ワークショップ当日

### ワークショップ

「ワークショップ」を実施します。

#### 1. 開会の挨拶

- 開会の挨拶において本ワークショップの目的やワークショップにあたっての注意事項について説明します。

#### 2. ワークショップの実施

- 「ワークショップテキスト」およびスライドのノート部分に記載されている読み上げ原稿をもとに、ワークショップを実施します。

##### 2-1. 意見交換における検討内容

- 意見交換においては「教材2-8 意見交換用台紙」や付箋等を活用し、参加者同士で、特に「ペットの飼養場所」、「飼い主受付とペットの経路」、「飼養場所の設営方法」、「必要な資材」、「飼養ルール」の5点について検討してもらいます。

【意見交換で参加者に検討してもらう内容】

1	ペットの飼養場所 (スライドP18)	現地調査の結果を踏まえ、避難所内におけるペットの飼養場所を選定します。
2	ペットの経路と飼い主受付 (スライドP22)	施設の出入口から飼養場所までのペットの経路、経路上の飼い主受付の場所を検討します。
3	飼養場所の設営方法 (スライドP34)	選定した飼養場所について、具体的な設営方法を検討します。
4	必要な資材 (スライドP36)	飼養場所の設営方法に基づき、必要な資材を検討します。併せて飼い主受付に必要な資材も検討します。
5	飼養ルール (スライドP40)	ペットの運営ルールについて、加筆・修正が必要な点がないか検討します。

##### 2-2. 意見交換の進め方

- それぞれの意見交換は以下の手順で進めていきます。

###### 【1. ペットの飼養場所 (スライドP18)】

- 進行者（講師）は、実際に行った現地調査の結果を踏まえ、避難所内のどこをペットの飼養場所として選定すべきか検討するよう参加者に促します。
- 選定にあたっては、ペットの飼養場所を選定する際のポイント（スライドP11-14）を改めて確認し、できるだけそのポイントを満たす場所を選定するよう説明します。
- 飼い主、避難所運営者、施設管理者の意見が必ずしも一致しないことを前提とし、それぞれが現実的に受入可能な場所について検討させます。
- 被害の状況によっては第一候補の場所が使用できない場合や同時に複数の場所が必要になることも想定し、複数の候補場所を選定させます。
- 候補場所に優先順位をつけることや、避難所の状況や動物種など、条件によっては順位が変わることがあることを意識させましょう。

- 参加者の意見が割れて場所が決まらない場合には、ワークショップにおいて複数の候補地を挙げておき、今後の訓練等を通じて引き続き検討するといったまとめ方もあります。

###### 【2. ペットの経路と飼い主受付 (スライドP22)】

- 進行者（講師）は、施設や敷地の出入口から飼養場所までのペットの経路、飼い主受付の場所を検討するよう促します。
- ペットの経路はペット専用ではなく、ペットの存在を許す場所として考えましょう。
- 飼い主受付については、状況によってペットの経路から離れた場所や、飼い主受付と避難所受付を同一の場所に設置する場合があります。その場合は他の避難所利用者と過度に近接しないよう配慮します。
- 特に、ペットの経路が他の避難所利用者の生活動線を横切っていないかは念入りに確認させましょう。

###### 【3. 飼養場所の設営方法 (スライドP34)】

- 進行者（講師）は、選定したペットの飼養場所について、具体的な設営方法を検討するよう参加者に促します。
- 屋外の場合は、逸走防止とペットの飼養環境を整える観点から、柵の設置や係留方法と雨風等を防ぐための屋根の設営方法などについて重点的に検討させます。
- 屋内の場合は、施設を汚損することなく適切に運営する観点から、撤収時に原状回復が可能となる設営方法などについて検討させます。
- 具体的な写真を見せるなど、設営完了後の状況が分かる写真等を準備し、参加者が具体的なイメージを持ちやすいようにします。

###### 【4. 必要な資材 (スライドP36)】

- 進行者（講師）は、設営に必要な資材と、飼い主受付を設置するために必要な資材を検討するよう参加者に促します。
- 原則、ペット用の資材は市町村では準備できないことを伝え、飼い主同士で持ち寄ることを基本に考えさせます。
- 保管方法については、避難所で備蓄するのか、災害時に飼い主が持参するのか、整理しておく必要があります。

###### 【5. 飼養ルール (スライドP40)】

- 進行者（講師）は、市町村が示しているペットの運営ルールを踏まえ、この避難所において追加または修正すべき項目がないか検討するよう参加者に促します。
- 絶対的な正解となる運営ルールがあるわけではなく、この避難所・地域の実状に即した現実的なルールを検討する場であることを明確にします。
- 運営ルールの検討にあたっては、災害時には運営スタッフや資材に限られること、ライフラインが復旧していない可能性があることを前提とします。

#### 3. 閉会挨拶、アンケート調査の実施

- 企画・運営者は、閉会の挨拶をした後、参加者に必要に応じてアンケートを配布し、回答結果を回収します。

#### 4. 「〇〇避難所ペット対応手順書」への反映

- 市町村職員または避難所運営者は、「〇〇避難所ペット対応手順書」の雛型をダウンロード

ドの上、意見交換により決定した内容を反映します。

- 反映後の手順書については、後日、紙媒体または電子データにて参加者へ配布し、避難所に備えられている既存の避難所開設・運営マニュアルと共に保管します。

### 参考 意見交換の進め方のコツ

視点	コツ
意見が出ない ときの促し方	<p>意見交換の場で発言が少ない場合、参加者は「間違っただけを言っただけでいい」「専門的な答えを求められているのではないか」と不安に感じていることが多くあります。進行役は、誰もが安心して話せる雰囲気づくりを最優先に進めることが大切です。そのためには、「どう思いますか」といった広い問いかけではなく、「鳴き声」「におい」「動物が苦手な人への配慮」など、具体的に答えやすいテーマに分けて質問すると効果的です。</p> <p>また、いきなり発言してもらうのではなく、まず手元の紙や付箋に考えを書いてから共有してもらう方法を取ることで、心理的な負担が軽くなります。さらに、「飼い主の立場ならどうでしょうか」「飼っていない人の立場ではどうでしょうか」と視点を示して問いかけると、参加者は意見を持ちやすくなります。沈黙が生じた場合も、失敗と捉えず、参加者が考えている時間として尊重する姿勢が重要です。</p>
意見が偏るとき の修正の仕方	<p>一部の参加者の発言が続くと、他の人が意見を述べにくくなり、議論が偏ってしまうことがあります。このようなときは、進行役がまだ発言していない人に配慮しながら、「これまでとは違う考えをお持ちの方はいらっしゃいますか」と呼びかけることで、多様な意見が出やすくなります。</p> <p>また、「言いにくいと感じている方もいらっしゃるかもしれませんが」と前置きすることで、少数意見も歓迎していることを伝えられます。必要に応じて小グループで話し合い、その後に全体へ共有する方法を取り入れると、発言機会がより均等になります。大切なのは、多数の意見が正しいという流れにせず、さまざまな立場の声を集めること自体に意味があると示すことです。</p>
意見が対立した ときの扱い方	<p>ペット同行避難についての議論では、生活環境や衛生面、感情的な要素が関わるため、意見の対立が起こることは自然なことです。進行役は対立を避けるのではなく、課題が明確になった機会として前向きに受け止める姿勢が求められます。</p> <p>まずはそれぞれの意見について、「不安に感じておられるのですね」「衛生面が心配ということですね」と整理しながら受け止めます。そのうえで、「避難者全員が安全で安心して過ごすためにはどうしたらよいでしょうか」と共通の目的に立ち返ることが重要です。どちらか一方を選ぶのではなく、場所を分ける、ルールを設けるなど、条件を工夫することで折り合える点を探っていきます。</p>
結論の決め方 (クロージング)	<p>意見交換の最後は、無理に一つの結論にまとめることよりも、次につながる整理を行うことが重要です。まず、その日に出た意見を振り返り、「おおむね共有できた点」と「さらに検討が必要な点」を分けて確認します。</p> <p>そして、「本日の意見をもとに運営側で案を作成し、次回あらためて検討します」といったように、今後の進め方を示すことで参加者は安心できます。時間が足りないまま決定してしまうと、後々のトラブルにつながる可能性がありますので、決めきれない場合は継続して話し合う判断も大切です。参加者が「自分の意見をきちんと聞いてもらえた」と感じられる形で締めくくることが心かけます。</p>

## STEP4：ワークショップ終了後

### 改善

教材を改善し、強化・充実を図ります。

#### 1. ワークショップ実施の課題を明らかにする

- 参加者の意見やアンケート結果を集約し、準備・実施上の課題を明らかにします。

#### 2. 教材を改善する

- 課題に対する改善方法を明らかにし、実施要領やワークショップスライドなどを改善します。

## 3. ペット同行避難者の受入訓練を行いましょう

ペットを受け入れるための体制整備がある程度進んだら、災害時を想定して、円滑にペット同行避難者を受け入れるための訓練を実施しましょう。

テ マ ③	〇〇避難所におけるペット同行避難者の受入・運営訓練
目 的	「テーマ② 〇〇避難所におけるペットの受入れ・管理の体制づくり」のワークショップで整理した体制や手順に基づき、飼い主受付と飼養場所の設営を行い、ペット同行避難者を受け付け、飼養場所へ案内し、ペットを収容するまでの流れを、実践的に確認することを目的とする。
対 象 者	飼い主、避難所運営者（町内会・自治会等）、施設管理者、市町村職員などの関係者
形 式	実働訓練形式 （活動の実施）
所要時間	2時間
内 容	ペットの飼養場所や飼い主受付の設営を行い、ペットの経路を確認するとともに、ペット同行避難者を受け付け、飼養場所へ案内し、ペットを収容するまでの流れを、具体的な行動として確認する実働訓練を行う。
付属資料	• 教材3-1 実施要領（案） • 教材3-2 案内チラシ（案） • 教材3-3 訓練カリキュラム（案） • 教材3-4 訓練テキスト（案） • 教材3-5 アンケート（案）

#### ● 進め方の流れ



## STEP 1：訓練開催日の前日まで

### 事前準備

訓練開催日の前日までに必要な準備を進めます。

#### 1. 実施要領を確認し、訓練の対象者に配布する

- 「教材3-1 実施要領（案）」により、訓練の目的や内容、スケジュールなどについて確認し、訓練をイメージします。
- 「教材3-1 実施要領（案）」を変更・修正し、計画している訓練の「実施要領」を完成させます。
- 完成した「実施要領」をもとに「教材3-2 案内チラシ（案）」を活用して「案内チラシ」作成し、訓練の対象者へ参加を呼びかけます。

#### 2. 訓練テキストを確認し、修正する

- 「教材3-3 訓練カリキュラム（案）」により、当日の流れを確認します。
- 「教材3-4 訓練テキスト（案）」により、訓練の内容や訓練の進行に合わせて配布する資料などを確認します。
- 「教材3-5 アンケート（案）」により、収集したい意見を検討します。
- 市町村に関する内容を追加・修正し、「訓練カリキュラム」、「訓練テキスト」、「アンケート」を完成させます。

#### 3. 機材や文房具を手配・準備する

- 訓練で使用する機材や文房具などを準備します。机・椅子のほかに準備すべき機材と文房具などは次のとおりです。

区分	No	用具	備考	数量
資器材	1	プロジェクター	パソコンデータの映し出し	1台
	2	スクリーン	パソコンデータの映し出し	1台
	3	パソコン	訓練の説明用	1台
	4	接続ケーブル	パソコンとプロジェクターの接続用	1本
	5	マイク	進行者・発表者の発言用	2本
	6	スピーカー	進行者・発表者の発言用	1台
	7	ポインター（指し棒）	スクリーン上に投影した事項の指示	1台
記録	8	デジタルカメラ	記録用	1台
	9	ビデオカメラ	記録用	1台
	10	三脚	記録用	1台
	11	ICレコーダー	記録用	1台
配布物	12	訓練テキスト	手元資料	1部/人

区分	No	用具	備考	数量
訓練用 物品	13	文房具	サインペン、筆記用	1本/人
	14	バインダー	現地調査用	1個/人
	15	机	受付用	1台
	16	椅子	受付用	2台
	17	〇〇避難所ペット対応手順書	事前に検討した内容を反映させたもの	班数分
18	その他飼養場所や受付の設営に必要な物品	必要に応じて準備	-	

#### 4. 訓練準備・実施に関する役割を分担する

- 訓練の進行をイメージしながら、準備や実施に必要な役割（進行（講師）、受付、記録など）を確認し、当日の担当を決めます。

## STEP 2：訓練前日または当日

### 直前準備

訓練前日または当日に会場の設営をします。

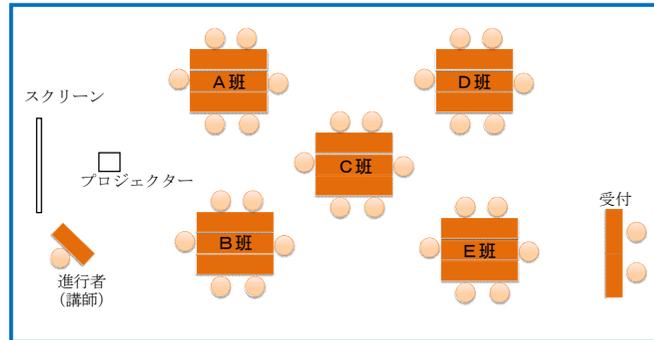
#### 1. 参加者に配布する資料を印刷する

- 印刷する資料一覧は以下のとおりです。

No	印刷物	数量
1	〇〇避難所ペット対応手順書	班数分
2	訓練テキスト	参加者数分
3	アンケート	参加者数分

## 2. 訓練会場を設営する

- 訓練会場のレイアウトイメージは次のとおりです。



訓練会場レイアウトイメージ

- ① 机・椅子の設置
- ② プロジェクター、スクリーン、パソコン等の設置  
進行者（講師）が使用するパソコンを配置し、そばにマイクやポインターをセットします。
- ③ 受付の設置
- ④ 事前に配布できる資料、必要な文房具や訓練資料などを机上に用意

## STEP 3：訓練当日

### 訓練

「訓練」を実施します。

#### 1. 開会の挨拶

- 開会の挨拶において本訓練の目的や訓練にあたっての注意事項について説明します。

#### 2. 訓練の実施

- 「教材3-3 訓練テキスト」およびスライドのノート部分に記載されている読み上げ原稿をもとに、訓練を実施します。

#### 3. 閉会挨拶、アンケート調査の実施

- 企画・運営者は、閉会の挨拶をした後、参加者に必要に応じてアンケートを配布し、回答結果を回収します。

## STEP 4：訓練終了後

### 改善

教材を改善し、強化・充実を図ります。

#### 1. 訓練実施の課題を明らかにする

- 参加者の意見やアンケート結果を集約し、準備・実施上の課題を明らかにします。

#### 2. 手順書・教材を改善する

- 課題に対する改善方法を明らかにし、〇〇避難所ペット対応手順書の改善のほか、実施要領や訓練スライドなどを改善します。



## テーマ①：ペット同行避難対策の基本原則を理解しよう

## 実施要領（案）

## 1 テーマ概要

## (1) テーマ名

ペット同行避難対策の基本原則を理解しよう

## (2) 目的

過去の災害におけるペットとの避難や生活に関する問題と対策の必要性を理解するとともに、ペット同行避難対策の基本原則を学び、関係者の役割理解と意識づくりを目的とする。

## (3) 内容

避難所におけるペット同行避難の問題と対策について説明し、災害時にペットと共に避難する際に生じやすい問題点や、その解決に向けた具体的な対応策、事前準備の重要性について理解を深める。

次に、「ペット同行避難対策における基本原則」として、ペット同行避難の考え方や各主体の役割などについて説明し、関係者による意見交換を行うことで相互理解を深め、今後の対策について検討を行う土台を作る。

## 2 開催概要

## (1) 日時

〇〇〇〇年〇月〇日（日）午前〇時～午前〇時（1時間）

## (2) 場所

〇〇小学校

## (3) 対象者

〇〇町の住民（特に飼い主）、〇〇町内会、△△小学校職員、市町村職員など

## (4) 形式

研修形式（講義と意見交換）

## (5) 主催

〇〇〇市町村

### 3 スケジュール

時間	所要 <sup>※</sup>	累積 <sup>※</sup>	内容
XX:XX - XX:XX	1	1	開会
XX:XX - XX:XX	3	4	【講義】 避難所とはどんなところ
XX:XX - XX:XX	20	24	【講義】 避難所におけるペット同行避難の問題と対策
XX:XX - XX:XX	5	29	【講義】 ペット同行避難対策における基本原則
XX:XX - XX:XX	20	49	【講義・意見交換】 求められる役割
XX:XX - XX:XX	10	59	【講義】 今後の対策の流れ
XX:XX - XX:XX	1	60	閉会

※単位は「分」

以上

〇〇避難所

# ペット同行避難対策の 基本原則を理解しよう

過去の災害事例から、避難所でのペット対応の課題を学び  
〇〇避難所でどのような対策ができるかを考えましょう！

〇〇〇〇年

〇月〇日(日)

〇〇時 ~ 〇〇時

対 象 〇〇町内会(住民・関係者)

会 場 〇〇〇小学校  
(愛知県〇〇市〇〇町1-1)

参加費 無料

定 員 〇〇名

内 容 過去の災害における避難所等での  
ペット同行避難における課題と対策  
の必要性を理解し、ペット同行避難対  
策の基本原則を学ぶ

避難所でペットを受け入れて  
もらえるの？

動物アレルギーの子どもが  
いるのだけど大丈夫なの？



特にペットを飼っている方、避難所運営に関わる方、是非ご応募ください。

お申込みは、お電話またはメールにて受け付けております。

申込期間 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日(〇)まで

電話:〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

メール:〇〇〇〇〇〇〇@〇〇〇〇



## テーマ①：ペット同行避難対策の基本原則を理解しよう カリキュラム

目的	過去の災害におけるペットとの避難や生活に関する問題と対策の必要性を理解するとともに、ペット同行避難対策の基本原則を学び、関係者の役割理解と意識づくりを目的とする。
対象者	飼い主、避難所運営者（町内会・自治会等）、施設管理者、市町村職員などの関係者及び地域住民
時間	60分

セッション		スライドタイトル		所要(分)	
0	開会	-	-	1	1
1	避難所とはどんなところ	1	【タイトル】ペット同行避難対策の基本原則を理解しよう	0	3
		2	本日の内容	1	
		3	【章タイトル】避難所とはどんなところ	0	
		4	避難所とはどんなところ1	1	
		5	避難所とはどんなところ2	1	
2	避難所におけるペットの避難や生活に関する問題と対策	6	【章タイトル】避難所におけるペットの避難や生活に関する問題と対策	0	20
		7	【問】過去の災害ではペットに関してどのような問題があったのでしょうか？	0	
		8	避難行動に関わる問題	4	
		9	避難所におけるペット受入れに関わる問題	4	
		10	避難生活上におけるペットに関する問題	4	
		11	被災地におけるペットのようす	1	
		12	【問】このような問題に対して国や県はどのような対策をしているのでしょうか？	0	
		13	国の動向と県の対策	2	
		14	〇〇市の対策	2	
		15	【問】現場で混乱してから対応を考えるのでは負担が大きくなります。同じ問題を繰り返さないために事前のペット同行避難対策が重要です！	3	
2	ペット同行避難対策における基本	16	【章タイトル】〇〇市（町村）におけるペット同行避難の基本方針	0	5
		17	【問】ペット同行避難対策を進めていくにあたり、まずは何を理解すべきなのでしょうか？	0	
		18	ペット同行避難における基本原則1	1	
		19	ペット同行避難における基本原則2	1	
		20	ペット同行避難における基本原則3	1	
		21	ペット同行避難における基本原則4	1	
		22	〇〇市におけるペット同行避難対策の基本原則的な考え方	1	

3	求められる役割	23	【章タイトル】 飼い主・避難所運営者・施設管理者に求められる役割	0	20
		24	【問】 これらを前提としたペットの災害対策において、それぞれの立場ではどのような役割が求められるのでしょうか？	0	
		25	【個人ワーク】 災害時に求められる役割について	5	
		26	【グループワーク】 災害時に求められる役割について	10	
		27	それぞれの役割	5	
4	今後の対策の流れ	28	【章タイトル】 今後の対策の流れ	0	10
		29	【問】 それでは、今後〇〇避難所においては、具体的にどのような対策をすべきなのでしょう か？	1	
		30	〇〇避難所におけるペット対策の全体像	2	
		31	飼い主がすべき備え	1	
		32	飼い主がすべき備え	1	
		33	質疑応答	5	
5	閉会	34	-	1	1

全体時間

60

避難所におけるペット同行避難対策推進の手引き(テーマ①)

## ペット同行避難対策の基本原則を 理解しよう

〇〇〇〇年〇月〇日(〇)

XX:XX ~ XX:XX

〇〇避難所

- 「皆さま、おはようございます。本日はお忙しい中、研修にご参加いただきありがとうございます。どうぞございます。
- 本日のテーマは『ペット同行避難対策の基本原則を理解しよう』です。
- この研修を通じて、皆さんと一緒にペットとの避難について基本から学び、考えていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。」

## 本日の内容

1. 避難所とはどんなところ
2. 避難所におけるペットの避難や生活に関する問題と対策
3. ペット同行避難対策における基本原則
4. 飼い主・避難所運営者・施設管理者に求められる役割
5. 今後検討すべきことについて

- 「本日は、5つのテーマを中心に進めてまいります。
- 本日は、ペット同行避難の基本を理解していただきますが、まずはじめに、そもそも避難所とは何か説明します。
- 次に、実際の災害時にどのような問題が起こったのか、『避難所におけるペットの避難や生活に関する問題と対策』を見ていきます。
- そして、『ペット同行避難対策の基本原則』として、考え方を学びます。
- その後、『飼い主・避難所運営者・施設管理者に求められる役割』として、飼い主・避難所運営者・施設管理者、それぞれの立場で何ができるのかを考え、最後に『今後検討すべきこと』として、私たちが地域で何を準備しておくべきかを整理します。

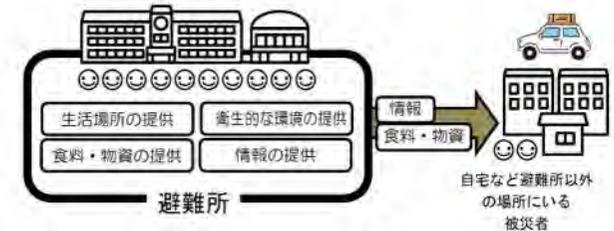
## 1.避難所とはどんなところ

3

- それでは、ペットのことを考える前に、最初に避難所について簡単にお話しします。

## 避難所とはどんなところ

災害が起きたとき、避難所は、水道や電気、ガスなどのライフラインが復旧するまで、被災した人々が共同で生活する場所になります！



4

- そもそも避難所とは、学校や公民館などの公共施設がほとんどです。避難所となる施設の多くは、人が寝起きし、生活するために作られたものではありません。
- また、普段から避難所として機能しているわけでもありません。施設にはそれぞれ管理者がおり、いつもは別の目的で使われています。その施設を、災害時に利用することになるのです。
- そんな避難所の役割ですが、災害が起きたとき、避難所は、水道や電気、ガスなどのライフラインが復旧するまで、被災した人々が共同で生活する場所になります。
- また、避難所以外の場所に滞在している被災した人に対しても、情報や水、食料、物資を提供するなど、地域の復旧・復興を支援するための地域の拠点施設としての役割も担います。

## 避難所とはどんなところ

避難所にはさまざまな人が事情を抱えてやってきます  
その中でどう一緒に共同生活をするかを考える必要があります



高齢者



障害者



乳幼児



ペット

5

- 避難所には、周辺の地域で被災した人や、災害で被害を受けるおそれのある人などが、様々な事情を抱えて集まってきます。
- 自宅の被災状況も違えば、年齢や性別、障害や難病、持病やアレルギーなどの有無、妊産婦、外国人など、自分や家族が抱える状況も違います。
- ペットもその中の一つです。かならず避難所のある地域にはペットを飼っている方がおり、その方々は避難所に避難をしてきます。
- そのときに備えて、本日はペット対策を考えましょう。

## 2. 避難所におけるペットの避難や生活に関する問題と対策

6

- それでは、最初のテーマに入ります。
- テーマは「避難所におけるペットの避難や生活に関する問題と対策」です。
- 災害時、避難所にはペットを連れて避難する方もいれば、動物が苦手な方も集まります。
- そのため、ペットに関するトラブルが発生することも少なくありません。
- このパートでは、過去の災害事例をもとに、実際にどのような問題があったのか、そして現在どのような対策や工夫が考えられているのかを、参加者の皆さんと一緒に確認していきます。



- まず、過去の災害で実際にどのような問題が起こったのかを見ていきます。

### 避難行動に関わる問題

- 自治体のペット同行避難方針が明確でなく、**ペットを連れて避難してよいか判断できない**事例が見られた
- ペット受入可能な避難所の情報が十分に伝わらず避難先選択に混乱が生じた



ペット同行避難に関する基本方針が未整備、  
又は周知が不足していたことで避難行動における問題が発生した

8

- 最初は、避難行動に関わる問題です。
- 飼い主にとっての大きな問題のひとつが、“そもそもペットを連れて避難していいのか分からない”という点です。
- 自治体がペット同行避難について明確な方針を出していなかったため、迷ってしまう飼い主が多かったです。
- また、どの避難所がペットを受け入れてくれるのかという情報が不十分だったため、現地で混乱が生じました。
- このように、ペット同行避難に関する基本方針が未整備、または周知が不足していたことで避難行動における問題が発生しました。

## 避難所におけるペット受入れに関わる問題

- 動物専用スペースが確保できず、ペットの受入れを断る避難所が生じた
- 受入れの可否や方法が現場判断に委ねられ、対応にばらつきが生じた
- 避難所運営委員等の判断に依存し、自治体内でも対応差が見られた



ペットを飼養する場所の検討や受入方法検討されていなかった

9

- 次に、避難所でペットを受け入れる際の問題についてです。
- 避難所には人が多く集まるため、スペースの確保が問題になりますが、動物専用のスペースがなかったために受入れを断られた事例もありました。
- また、避難所ごとに対応がバラバラで、ルールも明確ではなく、現場でその場その場の判断に頼るしかなかったという状況も多かったのです。
- これは、受け入れる体制やルールがあらかじめ整っていなかったために起こったことで、自治体の中でも対応に差が出てしまった原因の一つです。
- このように、ペットを飼養する場所の検討や受入方法が検討されていなかったことで避難所におけるペット受入れにおける問題が発生しました。

## 避難生活上におけるペットに関する問題

- 糞尿処理や鳴き声等により、避難所の生活環境が悪化した
- 動物が苦手な避難者やアレルギーを有する避難者との間で摩擦が生じた
- ペットをめぐり、一部の飼い主から過度な要望が寄せられた
- 周囲に対する遠慮から、やむなく車中泊や在宅避難へ移行する事例が見られた



ペットに関する取決めが十分にされていなかった  
飼い主や地域住民への理解や啓発が不十分であった

10

- 続いて、避難所での生活に関する問題についてです。
- たとえば、ペットの鳴き声や糞尿の処理が十分にされず、避難所の生活環境が悪化してしまったというケースがありました。
- また、動物が苦手な方や、アレルギーを持っている方にとっては、ペットの存在自体がストレスになってしまうこともありました。
- 一部の飼い主が過度な要望を出してしまったことで、避難所の運営が難しくなった事例も報告されています。
- その結果として、飼い主の方が避難所に居づらくなり、車中泊を選んだり、自宅にとどまるケースも見られました。
- このように、ペットに関する取決めが十分にされていなかったことや、飼い主や地域住民への理解や啓発が不十分であったことで、避難生活上における問題が発生しました。

## 被災地におけるペットのようす



放浪となった犬

公衆衛生上の危害の発生  
ペットを飼っていない方にとっても問題



屋内(体育館)で生活する犬



屋外(車中)で生活する犬

左上:東日本大震災におけるペットの被災概況(環境省)より引用、右上:人とペットの災害対策ガイドライン(環境省)より引用  
左下・右下:令和6年能登半島地震における被災動物対応記録集(環境省)より引用

11

- こちらが実際の被災地のようすの写真です。
- 左上は東日本大震災で放浪となった犬の写真です。
- このように、ペットにまつわる問題は、放逐されたペットや野良猫の増加などを招き、避難所やその周辺地域において、咬傷事故や糞尿による生活環境の悪化といった公衆衛生上の危害が発生した事例も見られました。
- 左下は体育館で人とペットと一緒に生活している写真です。避難所に余裕があれば、ペットと一緒に過ごせる場合もあります。
- 右下は、車の中で生活しているペットの写真です。能登半島地震の際には、このように車内でペットを管理する例が多く見られました。
- このように、過去の被災地では、ペットの避難に関してさまざまな状況が確認されました。



12

- このような問題に対して、国や自治体はどのような対策をしているのかを確認しましょう。

## 国の動向と県の対策

ペット同行避難に関する取組が位置づけられており、近年の改定では、各避難所における具体的な対応の推進がより明確に示されている

### 最近の国の重要な動向

#### 「防災基本計画」の改正 ※

- 能登半島地震を踏まえた改正
  - 避難所におけるペットスペースの確保を努めること
  - 獣医師会や動物取扱業者等との連携に努めること を明示
- ※「避難所運営等避難生活支援のためのガイドライン」と「避難生活における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」も同様に改定される

#### 環境省「人とペットの災害対策ガイドライン」の改訂

- 能登半島地震の課題を踏まえて改正
- 避難所のペット対策の体制整備
- 関連部署間の連携 を明示

### 愛知県の対策

#### 「愛知県避難生活支援マニュアル」の改正



#### 「避難所におけるペット同行避難対策推進の手引き」の作成



13

## 〇〇市(町村)の対策

ペット同行避難対策について市町村で取り組んでいる活動があれば記載してください。

14

- こうした問題を受けて、国としてもさまざまな対応を進めてきました。
- 2011年の東日本大震災をきっかけに、ペット同行避難への注目が高まり、方針が打ち出されました。
- その後、2016年の熊本地震では現場での混乱が課題として浮き彫りになり、そして、2024年の能登半島地震では、各避難所におけるペット対応の必要性がより具体的に示されるようになりました。
- このように、ペット同行避難に関する取組は法的にも位置づけられており、近年の改定で、各避難所における具体的な対応の推進がより明確に示されています。
- 愛知県でも、これらを踏まえ、愛知県避難生活支援マニュアルが改正され、また、ペット同行避難対策に特化した手引きも作成されました。

(市町村で取り組んでいる活動を記載)

災害が発生してから対応を考えるのでは  
負担が大きくなります。

同じ問題を起こさないために  
**事前のペット同行避難対策が重要です！**

15

- 災害が発生してから対応を考えるのでは負担が大きくなります。
- 同じ問題を繰り返さないために事前のペット同行避難対策が重要です！

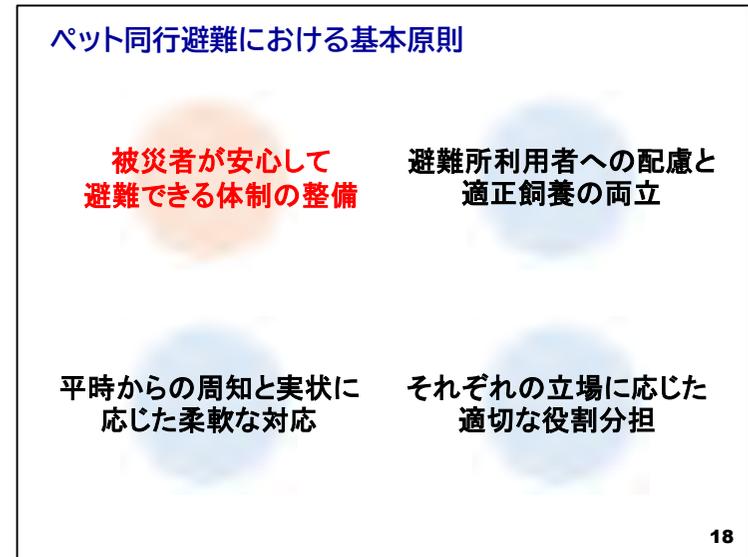
### 3. ペット同行避難対策における基本原則

16

- ここからは、ペット同行避難を進める上での基本的な考え方についてお話しします。



- ペット同行避難対策を進めていくにあたりまずは何を理解すべきなのでしょう、確認しましょう。



- ペット同行避難対策における基本原則の一つ目は、被災者が安心して避難できる体制の整備です。
- 災害時は、被災者が安心して避難生活を送れる環境の確保が必要です。
- 飼い主がペットを理由に避難をためらうことがないように、ペットと共に安心して避難できる環境を提供することを基本とします。
- 避難所へのペット同行避難は、飼い主自身の安全確保や円滑な避難行動を促す観点から位置づけられるものです。

## ペット同行避難における基本原則

人命優先を大前提とした「避難者の受入れ」

避難所利用者への配慮と  
適正飼養の両立

平時からの周知と実状に  
応じた柔軟な対応

それぞれの立場に応じた  
適切な役割分担

19

- 2つ目は、多様な避難所利用者への配慮と適正飼養です。国の考え方を踏まえ、ペットとともに避難する「同行避難」を基本とします。
- その際、避難所は多様な避難者が共同で生活する場であることから、動物が苦手な人やアレルギーを有する人への配慮を行うとともに、ペットの健康や安全にも配慮し、避難所全体の秩序・衛生・安全との両立を図ります。

## ペット同行避難における基本原則

人命優先を大前提とした「避難者の受入れ」

避難所利用者への配慮と  
適正飼養の両立

平時からの周知と実状に  
応じた柔軟な対応

それぞれの立場に応じた  
適切な役割分担

20

- 3つ目は、平時からの備えを重視し地域・施設の実情に応じた運用をすることです。
- 発災時の混乱を防ぐため、平時から基本方針や運用ルールを整理し、住民や関係者に周知しておくことを重視します。
- そのうえで、避難所の構造や被害状況などを踏まえ、地域や施設の実情に応じた柔軟な運用を行います。

## ペット同行避難における基本原則

人命優先を大前提とした「避難者の受入れ」

避難所利用者への配慮と  
適正飼養の両立

平時からの周知と実状に  
応じた柔軟な対応

それぞれの立場に応じた  
適切な役割分担

21

- 4つ目は、飼い主、避難所運営者、施設管理者など、それぞれの立場に応じた適切な役割分担です。
- 特に飼い主に対しては、災害時においてもペットの管理は飼い主の責務です。市町村は受入環境の整備を行います。日頃からのしつけ、健康管理、必要物資の備え等は、飼い主自身が行わなければなりません。

## 〇〇市(町村)におけるペット同行避難の基本方針

ペット同行避難対策の基本方針について市町村で定めていることがあれば記載してください。  
(「マニュアル本編 第2章」での検討結果)

22

(〇〇市(町村)におけるペット同行避難の基本方針を記載)

#### 4.飼い主・避難所運営者・施設管理者に 求められる役割

23

- 次に、飼い主・避難所運営者・施設管理者に求められる役割を確認しましょう。

ペット同行避難対策において  
それぞれの立場ではどのような役割が  
求められるのでしょうか？



24

- ペット同行避難対策において、それぞれの立場ではどのような役割が求められるのでしょうか。

## 【個人ワーク】災害時に求められる役割について

「飼い主」「避難所運営者」「施設管理者」それぞれの立場で災害時にどのようなことが求められるでしょうか？付箋紙に書き出してください

記入ルール

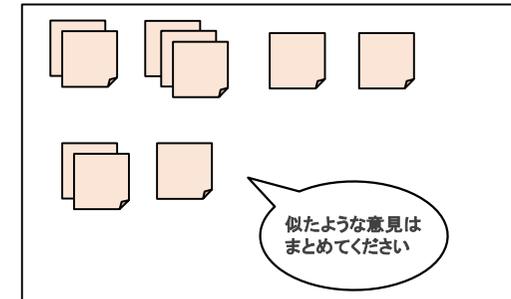
付箋紙1枚につき、1つのことを書きましょう！



- では、ここからワークです。
- 今回集まっている参加者同士で、「飼い主」「避難所運営者」「施設管理者」のそれぞれの立場で災害時にどのようなことが求められると思うかをまずは個人で考えてみて、付箋紙に書き出して下さい。

## 【グループワーク】災害時に求められる役割について

書き出した付箋紙を模造紙に貼り、**グループで意見を共有**してください。



- では次に、各個人で書き出した意見について、グループで共有しあってください。
- 付箋紙で似たような意見はまとめてください。

## それぞれの役割

### 飼い主の役割

適正飼養

### 避難所運営者 (町内会・自治会等)の役割

避難所全体の  
円滑な運営

### 施設管理者の役割

施設の衛生・安全  
の確保

それぞれが自らの役割を担い協力して対応する

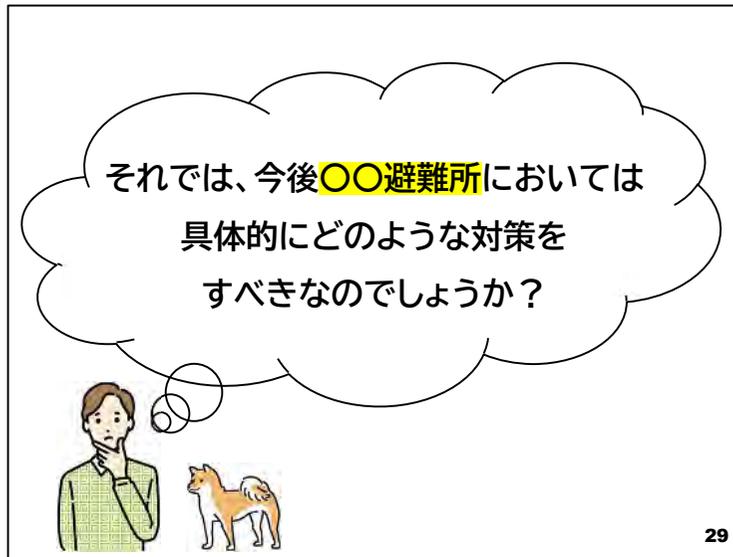
27

- いかがでしたでしょうか。では、一般的にどのような役割が求められるかを確認しましょう。
- まず“ペットの飼い主”としての役割を見ていきましょう。災害時、ペットの安全を守るのは飼い主の責務です。“自助”という考え方のもと、まずは自分自身とペットを守る力を備えることが大切です。
- 避難所では他の方々も一緒に生活することになりますので、周囲への配慮も欠かせません。適切な管理を行い、鳴き声や臭いなどで迷惑をかけないように心がけることが、結果としてペットとの避難をスムーズにするカギになります。
- 次に、避難所の運営者の役割です。まず、避難所運営者には“共助”の立場として、避難者が安心して過ごせる環境を整えることが求められます。
- 飼い主の方々と協力しながら、トラブルのない避難所運営を目指します。
- 最後に、施設管理者の役割です。施設管理者の役割として、避難所運営者や市町村の担当者と連携し、避難所が適切に運営できるよう、避難所の環境整備を支援します。
- このように、それぞれが自らの役割を担い協力して対応することが災害時にはとても大切になります。

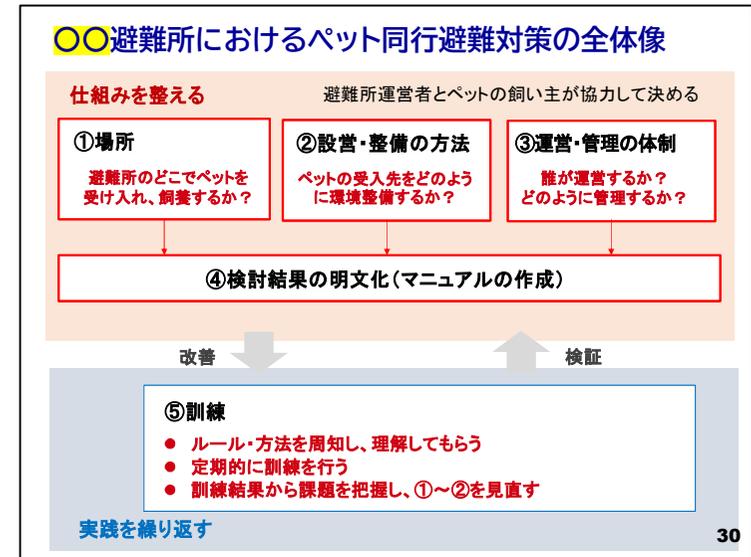
## 5. 今後の対策の流れ

28

- では、これらを踏まえて、今後どのような対策をすべきかを確認しましょう。



- 今後、〇〇避難所においては、具体的にどのような対策をすべきなのでしょうか。



- まず必要なのが、“仕組みを整える”ことです。
- 避難所でどこにペットを受け入れるのか、そのスペースをどのように確保し、整備するのかを明確にする必要があります。
- そして、誰がその場所を管理し、どんなルールで運営していくのかを事前に話し合い、マニュアルとして形に残しておくことが求められます。
- これは行政や避難所の運営者だけでなく、飼い主の皆さんも一緒になって考えるべき課題です。
- “誰かがやってくれる”ではなく、“自分たちで考えて準備する”ことが、地域の防災力を高める第一歩となります。
- 仕組みを作ったら、次は“実際にやってみる”ことが重要です。
- どんなに立派な計画やマニュアルを作っても、現場で動けなければ意味がありません。ですので、定期的に訓練を行い、ルールや手順を住民の皆さんに知ってもらうことが大切です。
- 訓練を通して、実際に動いてみると『ここが使いにくい』『ペットが落ち着かない』など、改善点が見えてきます。
- それを受けて再びマニュアル等を見直し、より実効性の高い形へと改善させていく。この“実践と改善のサイクル”を回していくことが、避難所のペット同行避難対策を確かなものにします。

## 飼い主がすべき備え

### 事前確認事項

- 住まいの安全
- ペットの飼養場所の安全
- ペットの受入れが可能な避難場所及び避難経路
- 家族や知人との連携
- 避難所の他に、避難所以外の避難先や預け先を複数確保しておく。

### ペットの所有者明示

- 首輪
- 迷子札(連絡先を記載)
- マイクロチップ
- 鑑札、狂犬病予防注射済票(犬の場合)



31

- 飼い主自身がすべき備えもあります。
- 住まいの安全確保として、家具の固定や転倒・落下防止対策を講じるとともに、ペットの飼養場所についても、ブロック塀やガラス窓付近を避け、ケージの固定など安全対策を行うことが重要です。
- また、ペットの受入れが可能な避難場所および避難経路を事前に確認するとともに、家族や知人との連携体制を整え、連絡方法や緊急時の預け先を確保しておくことが求められます。
- また、避難所の他に、避難所以外の避難先や預け先を複数確保しておくことも重要です。
- その他、災害時には、ペットと離れ離れになるかもしれません。ペットが保護されたとき、すぐに飼い主が分かるように身元を示すものをつけましょう。

## 飼い主がすべき備え

### ペット用の避難用品

#### 命や健康に関わる物(優先順位1)

- 療法食、薬
- ペットフード、水(少なくとも5日分[できれば7日分以上])
- キャリーバッグやケージ
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- トイレ用品(ペットシート、排泄物の処理用具など)
- 食器

#### 飼い主や動物の情報(優先順位2)

- ペットの写真
- 健康の記録

#### ペット用品(優先順位3)

- その他 タオル、ブラシ、おもちゃなど必要なもの



### ペットのしつけと健康管理

- 「待て」「伏せ」などができる(犬の場合)
- 無駄吠えをしない(犬の場合)
- 人や他の動物を怖がらない
- ケージなどに嫌がらずに入る
- 決められた場所で排泄ができる
- 不妊去勢手術
- 各種混合ワクチン接種
- (犬は狂犬病予防注射も接種する)
- ノミ、ダニなどの寄生虫の予防、駆除

32

- その他、ペット用の避難用品についても、ペットの命や健康に関わるものから優先順位をつけて準備しましょう。
- また、ペットとの同行避難をスムーズに行い、避難場所で受け入れてもらうためには、基本的なしつけと健康管理が必要です。
- 日頃から、しつけや健康管理をしておくことで、避難場所でのペットのストレスを軽減し、他人への迷惑を防ぐことができます。

# 質疑応答

33

- それでは最後に質疑応答です。
- 何か質問がある方はいますか？
- それでは研修を終わります。お疲れ様でした。





**(3) 講座を通じて学んだことについて、自由にお書きください。**

### **3. 講座内容の充実のためのご意見について**

**(1) 研修・講座内容について改善したほうが良いことがあれば、自由にお書きください。**

**(2) 今後、講座で学んでみたいことがあれば、自由にお書きください。**

**以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。**

飼い主

避難

A3以上のサイズで  
ご活用ください

施設管理者



テーマ②：〇〇避難所におけるペットの受入れ・管理の体制づくり

## 実施要領（案）

### 1 テーマ概要

#### (1) テーマ

〇〇避難所におけるペットの受入れ・管理の体制づくり

#### (2) 目的

ペットを受け入れる避難所において、その特性を踏まえた適切な受入・管理体制を整理・検討することを目的とする。

#### (3) 内容

ペットの飼養場所の選定や、設営・整備方法、運営・管理体制等について、関係者による意見交換を行いながら進める。

### 2 開催概要

#### (1) 日時

〇〇〇〇年〇月〇日（日）午前〇時〇分～午前〇時〇分（2時間 30分）

#### (2) 場所

〇〇小学校

#### (3) 対象者

〇〇町の住民（特に飼い主）、〇〇町内会、△△小学校職員、市町村職員など

#### (4) 形式

ワークショップ形式（現場確認とワークショップを通じた意見交換）

#### (5) 主催

〇〇〇市町村

### 3 スケジュール

時間	所要※	累積※	内容
XX:XX - XX:XX	1	1	開会
XX:XX - XX:XX	84	85	【現地調査・意見交換】 飼養場所の選定
XX:XX - XX:XX	35	120	【講義・意見交換】 飼養する場所の設営・整備の方法
XX:XX - XX:XX	20	140	【講義・意見交換】 飼養の運営・管理の体制
XX:XX - XX:XX	9	149	【講義】 今後の対策の流れ
XX:XX - XX:XX	1	150	閉会

※単位は「分」

以上

# 〇〇避難所におけるペットの 受入れ・管理の体制づくり

〇〇避難所においてペットを受け入れ、  
管理するための体制を整理・検討しましょう！

第2弾

〇〇〇〇年

〇月〇日(日)

〇時〇分～〇時〇分

対 象 〇〇町内会(住民・関係者)

会 場 〇〇〇小学校  
(愛知県〇〇市〇〇町1-1)

参加費 無料

定 員 〇〇名

避難所のどこでペットを  
飼養する？

ペットの場所をどのように  
設営・整備する？

ペット飼養のルール  
で何を決めておく？



特にペットを飼っている方、避難所運営に関わる方、是非ご応募ください。

お申込みは、お電話またはメールにて受け付けております。

申込期間 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日(〇)まで

電話:〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

メール:〇〇〇〇〇〇〇@〇〇〇〇



## テーマ②：〇〇避難所におけるペットの受入れ・管理の体制づくり カリキュラム

目的	ペットを受け入れる避難所において、その特性を踏まえた適切な受入れ・管理体制を整理・検討することを目的とする。
対象者	飼い主、避難所運営者（町内会・自治会等）、施設管理者、市町村職員などの関係者
時間	2時間30分

セッション		スライドタイトル		所要(分)	
0	開会	-	-	1	1
-	メモ	1	本資料の活用方法	0	0
1	飼養場所の選定	2	【タイトル】〇〇避難所におけるペットの受入れ・管理の体制づくり	1	84
		3	避難所ペット対策の対応フロー（全体像）	1	
		4	平時から整えておくべき仕組み	1	
		5	検討結果の明文化（マニュアル等の作成）	1	
		6	本日の内容	1	
		7	【章タイトル】飼養場所の選定	0	
		8	前提：〇〇避難所の基本情報	2	
		9	前提：〇〇避難所のレイアウト	2	
		10	【問】これらの前提を踏まえて、ペットを飼養する場所を選定しましょう！	0	
		11	ペットを飼養する場所を選定する上でのポイント1	2	
		12	ペットを飼養する場所を選定する上でのポイント2	2	
		13	ペットを飼養する場所を選定する上でのポイント3	1	
		14	ペットを飼養する場所を選定する上でのポイント4	1	
		15	〇〇避難所の飼養場所の候補（事務局検討案）1	4	
		16	〇〇避難所の飼養場所の候補（事務局検討案）2	2	
		17	【現地調査】ペットを飼養する場所を確認しよう！	25	
		18	【ワーク1】参加者同士で話し合ってみよう！	20	
		19	獣医師会の専門家による評価	1	
		20	【問】次に、「ペット受付」と「動線」についてもどのように設定するとよいかを検討しましょう！	0	
		21	ペットが通行しても良い避難所の出入口から飼養場所までの経路の設定	2	
22	【ワーク2】参加者同士で話し合ってみよう！	15			

2	飼養する場所の設営・整備の方法	23	【章タイトル】飼養場所の設営・整備の方法	0	35
		24	【問】選定したペットを飼養する場所について、どのようにレイアウトや配置をするかを検討しましょう！	0	
		25	設営・整備する上でのポイント	1	
		26	他避難所での設営・整備の事例1	0.5	
		27	他避難所での設営・整備の事例2	0.5	
		28	他避難所での設営・整備の事例3	0.5	
		29	他避難所での設営・整備の事例4	0.5	
		30	他避難所での設営・整備の事例5	0.5	
		31	他避難所での設営・整備の事例6	0.5	
		32	他避難所での設営・整備の事例7	0.5	
		33	他避難所での設営・整備の事例8	0.5	
		34	【ワーク3】〇〇避難所においてはどのようなレイアウト・配置にするかを意見交換しましょう！	15	
		35	【問】設営・整備をするために必要な資機材が何かを検討しましょう！	0	
		36	【ワーク4】参加者同士で話し合ってみよう！	15	
3	飼養の運営・管理の体制	37	【章タイトル】飼養の運営・管理の体制	0	20
		38	【問】ペットの飼養について、具体的に誰が、どのような役割分担で実施するかを明確にしておきましょう。	0	
		39	飼養ルール	5	
		40	【ワーク5】参加者同士で話し合ってみよう！	15	
4	今後の対策の流れ	41	【章タイトル】今後の対策の流れ	0	9
		42	検討結果の明文化（マニュアル等の作成）	1	
		43	平時から整えておくべき仕組み	1	
		44	「協力+対応スキル」を身につけましょう！（訓練の実施）	2	
		45	質疑応答	5	
5	閉会	46	-	1	1

全体時間

150

## 本資料の活用方法

- 本内容については、必ずしも一度にすべて実施する必要はありません。
- 所要時間等を踏まえ、ワークごとに区切って、複数回に分けて実施することもできます。

避難所におけるペット同行避難対策推進の手引き(テーマ②)

## 〇〇避難所におけるペットの受入れ・ 管理の体制づくり

〇〇〇〇年〇月〇日(〇)

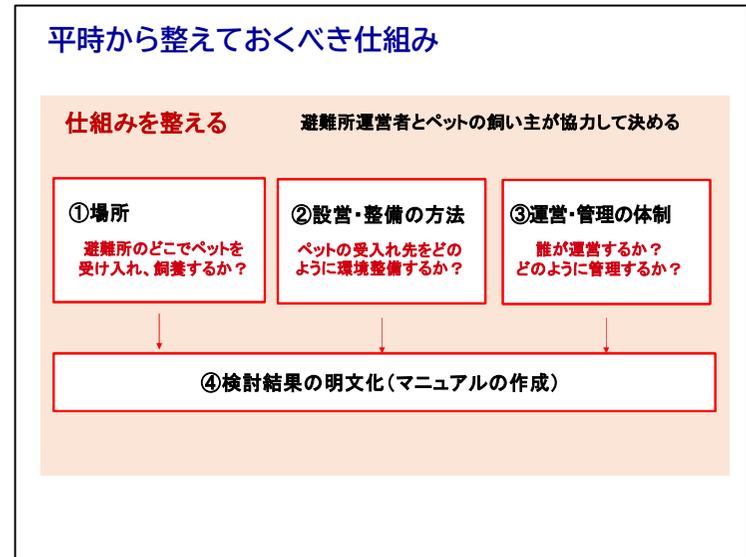
XX:XX ~ XX:XX

〇〇避難所

- 皆さま、こんにちは。本日はお集まりいただきありがとうございます。
- 本日の研修テーマは『〇〇避難所におけるペットの受入れ・管理の体制づくり』です。
- 前回の研修で学んだ“ペット同行避難の基本原則”を踏まえて、今回はより実践的に、避難所単位での具体的な仕組みづくりに取り組んでいきます。
- この避難所に合った現実的な対応策を、皆さんと一緒に考えていきましょう。



- まずはじめに、避難所でペットの受入れ、管理していくために必要な工程を簡単に説明します。
- このフロー図は、避難所におけるペット対策について、発災直後の初期期から運営の安定、統合・閉鎖までの一連の対応を時系列で整理したものです。
- ペットの受入準備や飼養場所の確保、運営体制の構築、飼い主との連携など、各段階で実施すべき主な事項を示しています。
- 本日は、災害時に円滑な対応が行えるよう、平時から整えておくべき仕組みづくりについてワークを行います。



- 平時から整えておくべき仕組みについてお話しします。
- 仕組みづくりには大きく4つのことが重要です。
- 1つ目は、どこで飼うか
- 2つ目は、その場所をどうやって飼養場所として整えるか
- 3つ目は、誰がどのように管理するか
- 4つ目は、どのように明文化するか
- これらを予め検討しておくことが大切です

## 検討結果の明文化(マニュアル等の作成)

ワークショップで検討する内容を「〇〇避難所ペット対応手順書」へ書き込み、避難所独自のペット対応手順書を作成しましょう。

今回の検討結果

### 〇〇避難所における

- ペットの飼養場所
- 受付の場所
- 設営・整備方法
- 飼養に関するルール など

避難所におけるペット対策の対応フロー(全体像)



(避難所ごとの避難所長に相談していただき、このフローを参考にしてください)

反映

手順書の雛型へ



検討結果を該当する箇所に書き込み

- 今回のワークショップでは、検討と明文化を同時に進めていきます。
- 検討結果の明文化として、「〇〇避難所ペット対応手順書」を活用します。
- 皆さんで検討した結果を手順書に書きながら、この避難所独自の手順書を作成していきましょう。

## 本日の内容

1. 飼養場所の選定
2. 飼養する場所の設営・整備の方法
3. 飼養の運営・管理の体制
4. 今後の検討の流れ

6

- こういったことを行うため、本日は主に4つのパートで進めていきます。
- はじめに、ペットの飼養場所をどこにするか検討します。
- 2つ目は、その場所をどのように設営・整備するのかを考え、
- 3つ目は、その場所をどのように運営・管理していくのか、体制について話し合います。
- 最後に、今後の訓練や改善の流れを確認していきます。
- 今日は、実際の避難所を想定した実践的な内容になりますので、皆さん一人ひとりのご意見がとても重要です。よろしく願いいたします。

## 1.飼養場所の選定

7

- ではまず、ペットを飼養する場所の検討を行きましょう。

### 前提：〇〇避難所の基本情報

〇〇避難所に関する、活用条件、利用上の注意点などの基本情報は以下の通りです。

	項目	内容
施設の情報	施設名	〇〇小学校
	建築年数	昭和●●年
	施設の構造	鉄筋コンクリート造(RC造)
	耐震性	有り
災害リスク	浸水害	なし
	土砂災害	なし
	地震	最大震度6強(南海トラフ地震)
使用条件	指定緊急避難場所の指定状況	地震・風水害
	指定避難所の指定状況	地震・風水害
	その他	〇〇〇〇〇〇

8

- まずは前提として、この〇〇避難所の基本条件を確認しましょう。
- 特に今回は、そもそもこの避難所をどの災害で使用するのかが確認します。
- まず地震についてですが、この避難所は新耐震基準で建設されており、十分な耐震性があります。
- また、風水害については、浸水および土砂災害の危険性はありません。
- そのため、この〇〇避難所は地震・風水害のいずれの場合にも・指定緊急避難場所としても・指定避難所としても活用することを想定しています。

(地震・風水害のいずれかのみで指定されている場合もあるために、誤解することのないように説明する)

前提:現時点での〇〇避難所のレイアウト



9

- 次にこの〇〇避難所のレイアウトについて確認しましょう。
- (校舎、体育館、プール、グラウンドの位置関係等について説明する)
- 今回はこの中からどの場所をペット飼養場所にするかについて検討を行います。



10

- では、これらの前提を踏まえて、ペットを飼養する場所を選定していきましょう。

## ペットを飼養する場所を選定する上でのポイント

### 「ペットの飼養」という視点

- 雨や風、日差しがさえぎられること
- 飼い主の居住スペースと比較的近いこと
- ケージの設置や、柱などへの係留ができること
- 飼い主以外の者への立入規制が行いやすいこと
- 動物の種類ごとにパーテーションなどで区画できること
- 水回りが近いこと
- 鉄道・幹線道路などから離れた静かな場所であること
- 季節・気候により、屋外と屋内の使い分けができること

11

- ペットを飼養する場所を選定する上でのポイントは「ペットの飼い主」「避難所運営者」「施設管理者」のそれぞれの視点を持つことです。
- まず、ペットの飼養という視点については、ペットを避難所で安心・安全に飼養するという視点を持って選定します。具体的には、
- 雨や風、日差しがさえぎられること
- 飼い主の居住スペースと比較的近いこと
- ケージの設置や、柱などへの係留ができること
- 飼い主以外の者への立入規制が行いやすいこと
- 動物の種類ごとにパーテーションなどで区画できること
- 水回りが近いこと
- 鉄道・幹線道路などから離れた静かな場所であること
- 季節・気候により、屋外と屋内の使い分けができること などがあげられます。

## ペットを飼養する場所を選定する上でのポイント

### 「避難所の運営」という視点

- 鳴き声や臭い、抜け毛が人の生活場所に届かないこと(近隣の住宅等も含む)
- 避難所運営の妨げにならない場所であること
- 他の避難所利用者とペットとの接触が避けられること
- 逸走防止対策ができること

12

- つぎに、避難所運営者の視点については、避難所運営全体をうまく運営していく視点を持って選定します。具体的には、
- 避難者とペットの経路ができるだけ交わらないこと
- 鳴き声や臭い、抜け毛が人の生活場所にできるだけ届かないこと(近隣の住宅等も含む)
- 避難所運営の妨げにならない場所であること
- 他の避難所利用者とペットとの接触が避けられること
- 逸走防止対策ができること などがあげられます。

## ペットを飼養する場所を選定する上でのポイント

### 「施設の管理」という視点

- 避難所閉鎖後、施設が元の使用目的に早期に復旧できること
- 掃除しやすく、現状復帰しやすいこと(備品が汚れたりしにくい)

13

- 最後に、施設の管理という視点については、施設を適切に管理するという視点を持って選定します。具体的には、
- 避難所閉鎖後、施設が元の使用目的に早期に復旧できること、学校であれば授業の再開を妨げないこと
- 掃除しやすく、現状復帰しやすいこと などがあげられます。

## ペットを飼養する場所を選定する上でのポイント

### 全ての視点で共通するポイント

- 全ての条件を満たす必要はない
- 避難所に応じてより良い場所を設定する
- 飼養場所は一か所に限らず、利用不能時や分散が必要な場合に備えて複数確保しましょう。

14

- なお、これら条件を全てを満たす必要はなく、避難所に応じてより良い場所を設定しましょう。
- また、飼養場所は一か所に限らず、利用不能時や分散が必要な場合に備えて複数確保しましょう。

### 〇〇避難所の飼養場所の候補(事務局検討案)

(候補④) 更衣室



(候補①) プール





(候補⑤) 昇降口



体育倉庫





(候補⑥) 飼育小屋



(候補③) 遊具



5

あらかじめペットを飼養する場所の候補を絞り込み、可能性のある場所を中心に検討を進めましょう。

- 以上の視点をもとに、あらかじめペットを飼養する場所の候補を、事務局で事前に絞り込んだものがこちらの場所です。
- ①プール
- ②体育倉庫
- ③遊具
- ④更衣室
- ⑤昇降口
- ⑥飼育小屋
- これら候補場所について、予め事務局で評価を行いました。

### 〇〇避難所の飼養場所の候補(事務局検討案)

ペットを飼養する場所の評価目安  
(事務局での評価目安)

評価方法: 適した場所には「○」、適さない場所には「×」、対策を実施することで適した場所とすることが可能な場合には「△」を記入してください。

別紙を参照ください

区分	自然となる項目	避難所内での飼養 へのつながり	1階	2階	3階	4階	5階	6階	7階	8階	9階	10階
優先事項	避難所内での避難経路の妨げとならないこと	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
優先事項	施設管理者の許可が得られること	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
必要事項	換気、日差しがさえぎられること	△	○	△	△	○	△	○	△	○	△	○
飼養の視点	飼いまの衛生スペースとは期間的でないこと	○	○	△	△	○	△	○	△	○	△	○
	カーブの設備や、柱などの障害ができること	△	△	△	△	○	△	○	△	○	△	○
	動物の糞尿などにパーテーションなどで区画ができること	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	飼いま以外の者への出入り制限がしやすいこと	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△
避難所運営の視点	水回りが近いこと	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	騒音・振動などから静かな場所であること	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	季節・気候により、暖房と冷房の使い分けができること	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
施設管理者の視点	騒音や臭い、雨や雪などの生活雑音に届かないこと (周囲が静かな環境)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
	避難所運営の妨げにならないこと	○	○	△	△	○	△	○	△	○	△	○
	他の避難所利用者やペットとの接触が避けられること	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
施設管理者の視点	遮断防止対策ができること	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	施設の利用時間を短縮しないこと	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△
施設管理者の視点	掃除しやすい、現状維持がしやすいこと (清掃が容易にできる)	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	点検・点検1回あたり、点検2回あたり、点検3回あたり	145	130	140	145	190	190	190	190	190	190	190
優先の候補場所	プール付体育倉庫 更衣室		代替の候補場所		体育館棟2階 避難所運営センター、体育館棟3階 中継上							

- これらの候補場所を事務局で評価した結果は、スライドのとおりです。
- こちらのスライドは、皆様のお手元にも配布しております。
- 事務局として、この評価をもとに、この候補場所にするとういのではないかと考えております。
- なお、この場所を選定した理由は●●●●●●●●●●だからです。
- 今回は、参加いただいたみなさんに特に、「飼い主」「避難所運営者」「施設管理者」のそれぞれの視点をもとに、本当にこの候補場所が適切なのかという観点から、現地調査をしていただこうと思います。
- なお、これだけの評価を行うのは時間がかかりますので、本日皆様に行っていた評価の基準項目は、これらを抜粋したものになります。(教材2-5を別紙として活用ください)

**【現地調査】ペットを飼養する場所を確認しよう！**

「評価目安」「バインダー」「ペン」を持って  
候補場所について評価を行いながら回りましょう！



17

- それでは実際にペットを飼養する場所の候補を現地調査で見て回りましょう。

**【ワーク1】参加者同士で話し合ってみよう！**

候補場所の現地調査をもとに  
どこにするのがよいかを話し合っ  
て  
ペットの飼養場所を検討しましょう！



【検討結果の反映】  
検討結果を手順書「3 飼養場所の選定」に書き込みましょう！

18

- 現地調査した結果をもとに、どこにするかよいのかを話し合っ、ペットを飼養する場所を選定しましょう。

**【ワークの進め方のポイント】**

- 進行者（講師）は、実際に行った現地調査の結果を踏まえ、避難所内のどこをペットの飼養場所として選定すべきか検討するよう参加者に促します。
- 意見交換においては「教材2-8 意見交換用台紙」や付箋等を活用します。
- 選定にあたっては、ペットの飼養場所を選定する際のポイント（スライドP11-14）を改めて確認し、できるだけそのポイントを満たす場所を選定するよう説明します。
- グループ編成は、飼い主、避難所運営者、施設管理者をできるだけ混在させ、さまざまな視点からワークが行われるよう配慮します。
- 主に、飼い主は自分のペットをいかに安心安全に飼養するか、避難所運営者は避難所全体の運営とのバランス、施設管理者は施設の適切な活用という視点を特に意識してください。
- 飼い主、避難所運営者、施設管理者の意見が必ずしも一致しないことを前提とし、それぞれが現実的に受け入れ可能な場所について検討します。
- 被害の状況によっては第一候補の場所が使用できない場合も想定し、代替案を含めて複数の候補場所を選定します。
- 候補場所に優先順位をつけることを意識しましょう。

【場所が決まらない場合】

- 参加者の意見が割れて場所が決まらない場合には、ワークショップにおいて複数の候補地を挙げておき、今後の訓練等を通じて、より現実的な場所を選定する方法を以て検討するよう促しましょう。

獣医師会

獣医師会等の専門家に参加いただける場合には、選定した場所について助言をいただきましょう。

〇〇先生

19

- (獣医師の先生等をお呼びしているのであれば)
- 本日は獣医師の先生もお呼びしております。
- 今回、各班で飼養場所を検討いただきましたが、専門会の立場からご意見をいただけますでしょうか？

(特に平常時の適正飼養と、災害時の適正飼養は、考え方が異なることを話してもらえると良いです。)

次に「飼い主受付」と「ペットの経路」も  
どのように設定するとよいかを  
検討しましょう！



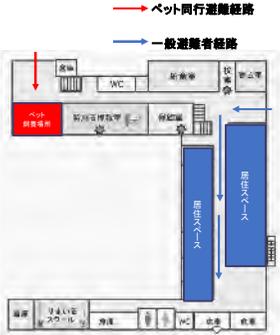
20

- 次に、飼い主の受付やペットの経路をどのように設定するとよいかを考えましょう。

### ペットが通行しても良い避難所の出入口から 飼養場所までの経路の設定

**設定のポイント**

- ペットが通っても良い入口を決め、その入り口から飼養場所までの経路を決めましょう。
- ペットの経路上で、飼い主受付の場所を決めましょう。
- 飼い主受付と避難所受付を同じ場所にする場合も、他の避難所利用者の受付と近接しすぎないように配慮しましょう。
- 正面入口付近や駐車場側の入口、など、直感的に分かりやすい場所が望ましい。



経路の設定イメージ

- ペットの通行が可能な避難所の出入口から飼養場所までの経路を決めるうえで、他の避難所利用者に配慮して経路を決めましょう。
- まず、ペットが通っても良い施設や敷地の入口を決め、その入り口から飼養場所までの経路を決め、その経路上に飼い主受付の場所を決めましょう。
- 飼い主受付と避難所受付を同じ場所にする場合も、他の避難所利用者の受付と近接しすぎないように配慮しましょう。
- 正面入口付近や駐車場側の入口、など、直感的に分かりやすい場所が望ましいです。

【ワーク2】参加者同士で話し合ってみよう！

ペットの経路と飼い主受付も  
どのように設定するとよいか  
検討しましょう！



【検討結果の反映】  
検討結果を  
手順書「4 ペット経路の設定」  
手順書「5 飼い主の受付場所の選定」に書き込みましょう！

22

- では実際にこの避難所の受付と動線について、どのように設定するとよいかを検討しましょう。

【ワークのポイント】

- 検討においては「教材2-8 意見交換用台紙」に付箋を貼ったり、直接書き込んだりしながら、意見交換を促します。
- 先述した設定のポイントが外れていないかを確認しましょう。
- 特に、ペットの経路が他の避難所利用者の生活動線を横切っていないかは念入りに確認させましょう。

## 2. 飼養場所の設営・整備の方法

23

- 次に、ペットの飼養場所の設営・整備方法について検討しましょう。



- ペットを飼養する場所について、どのようなレイアウトや配置にするかを検討しましょう。

### 設営・整備する上でのポイント

視点	設営のポイント
飼い主	<b>ペットが清潔に過ごせる環境の構築</b> 日照・通風の確保、雨風対策、温湿度管理 など
避難所 運営者	<b>居住スペースへ影響しないよう設営</b> 他の避難所利用者が容易に近づけないよう配慮、鳴き声・臭い・抜け毛対策 など
施設管理者	<b>飼養終了後に原状復帰がされるよう設営</b> 貸した物品が良好な状態で返却されること など <small>※特に屋内の場合には、施設を汚損しないような対策を行います。</small>

25

- 選定したペットを飼養する場所の現状に応じて、ペットを飼養する場所の設営をしましょう。
- 飼養場所の選定と同様に、「飼い主」「避難所運営者」「施設管理者」という3つの視点に基づき設営をすることが大切です。
- まず、飼い主の視点では、日照や通風を確保するとともに、雨風を防ぐ対策を行い、施設内の温度や湿度を適切に保つことで、ペットが過ごしやすく、清潔な状態を維持できる環境となるよう設営します。
- 次に、避難所運営者の視点では、他の避難所利用者が容易に近づくことができないよう配慮するとともに、鳴き声や臭い、抜け毛等が人の居住スペースにできるだけ影響しないよう意識した設営を行います。
- 最後に、施設管理者の視点では、飼養終了後に原状復帰がされ、貸した物品が良好な状態で返却されるような設営方法を選択します。

### 他避難所での設営・整備の事例



26

- 飼養場所が外なのか中なのかによっても設営のポイントは変わってきます。
- 具体的な設営の例で確認していきましょう。
- こちらは駐輪場の物をどけてブルーシートを敷いて活用している例です。

### 他避難所での設営・整備の事例



27

- この写真は、ピロティにおいて、防球ネットで間仕切りを行い、ブルーシートをかけて設営している例です。

### 他避難所での設営・整備の事例



28

この写真は、駐輪場にブルーシートをかけて設営している例です。

### 他避難所での設営・整備の事例



29

●こちらは、屋外の体育館の庇の下、雨風が避けられるところで、ブルーシートをかける例です。

### 他避難所での設営・整備の事例



30

- こちらは、プールサイドにブルーシートをかける例です。

### 他避難所での設営・整備の事例



31

- こちらはジャングルジムにブルーシートをかけて活用している例です。
- このように、屋外に設営する場合には、雨風や日よけ対策をいかにするかが一つポイントになってきます。

### 他避難所での設営・整備の事例



© 愛知県、場所:名古屋市

32

- 次に室内の場合も確認しましょう。
- こちらは、部室に、ブルーシートを敷いて活用している例です。

### 他避難所での設営・整備の事例



写真提供:品川区

33

- こちらは、更衣室のロッカーにゲージをそのまま入れる例です。
- 室内の場合には、いかに建物設備を汚損せずにするかという視点がポイントになります。

【ワーク3】参加者同士で話し合ってみよう！

〇〇避難所においては  
どのように設営・整備をすべきか  
検討しましょう！  
(作業工程も合わせて考えましょう)



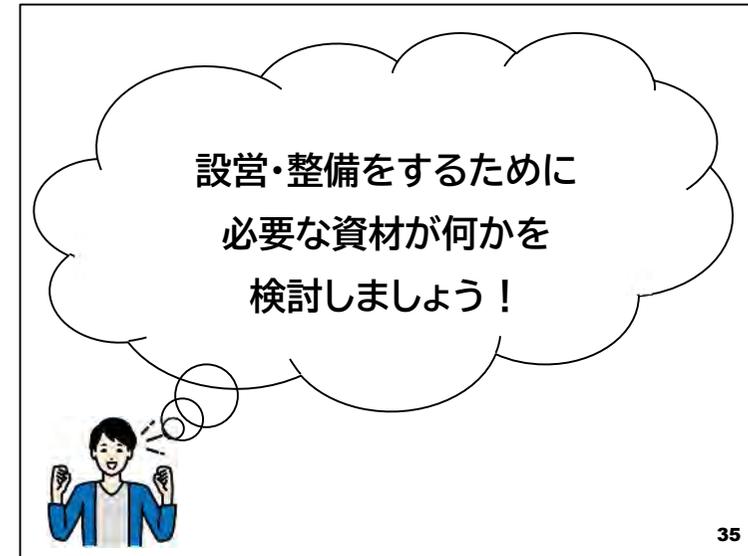
【検討結果の反映】  
検討結果を手順書「8 飼養場所の設営」に書き込みましょう！

34

- 今回選定した場所であれば、どのようにレイアウト・配置するのがよいかワークをしましょう。

【ワークのポイント】

- 他避難所での設営事例等をもとに、選定した場所ではどのように設営すべきかを具体的に検討しましょう。
- 検討においては「教材2-8 意見交換用台紙」に付箋を貼ったり、直接書き込んだりしながら、意見交換を促します。
- 設営については、具体的な作業工程も合わせて確認しましょう。
- 屋外の場合は、ペットの飼養環境を整える観点から、雨風等を防ぐための屋根の設営方法などについて重点的に検討させます。
- 屋内の場合は、施設を汚損することなく適切に運営する観点から、撤収時に原状回復が可能となるような設営方法などについて検討させます。



35

- 次に、設営・整備をするために必要な資材が何かを検討しましょう！

#### 【ワーク4】参加者同士で話し合ってみよう

飼養場所を設営するために  
必要な資材は何か、どこに保管すべきか  
検討しましょう！  
(飼い主受付に必要な資材も考えましょう)



【検討結果の反映】  
検討結果を手順書「7 資材の確保」に書き込みましょう！

36

- 今回の設営方法であれば、どのような資材が必要になるのかをワークをしましょう。

#### 【ワークのポイント】

- 設営の手順から逆算して必要になる資材を確認しましょう。
- 検討においては「教材2-8 意見交換用台紙」に付箋を貼ったり、直接書き込んだりしながら、意見交換を促します。
- 新たに備蓄すべきものがあつた場合には、施設にあるものを活用するだけでなく、飼い主同士で持ち寄れないか、話し合しましょう。
- 原則、ペット用の資材は市町村では準備できないことを伝え、飼い主同士で持ち寄ることを基本に考えさせます。
- 準備する資材は、避難所に備蓄するのか、飼い主が持ってくるのかも検討しておきましょう。

### 3.飼養の運営・管理の体制

- 次に飼養の運営・管理の体制について検討しましょう。

37



- ペットを飼養する場所の運営方法や遵守すべきこととして何を決めておくといのでしょうか

### 飼養ルール

区分	作業
基本事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ペットは、飼い主が責任をもって飼養することを原則とします。</li> <li>● 動物が苦手な方やアレルギーの方へ配慮し、他の避難所利用者の理解が得られるように適正飼養に努めましょう。</li> <li>● ペットによる苦情や危害の防止に努めてください。</li> <li>● 閉鎖時には飼養場所を利用したすべての飼い主が、協力して清掃を行い、原状復帰を行いましょ。</li> </ul>
受付	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入居時に、ペット用名札をケージ等に付けてください。</li> <li>● 退去時にも、必ず受付にお知らせください。</li> </ul>
運営	<p><b>市町村の基本方針で検討した飼養ルールを転記しましょう</b></p>
清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ペットの飼養場所は、飼い主の手によって常に清潔にし、必要に応じて消毒を行ってください。</li> <li>● 屋外の指定された場所で必ず排便させ、後始末をしてください。</li> </ul>
管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ペットは指定された場所に必ずつなぐか、ケージなどの中で飼ってください。</li> <li>● ペットの食料は原則として飼い主が用意してください。また、給餌の時間を決め、その都度きれいに片付けてください。</li> <li>● 体調異常があれば、早めに獣医師の診察を受けてください。</li> <li>● 飼養困難な場合は、最寄りの動物病院や、獣医師会が設置する動物救護本部に相談してください。</li> </ul>

39

- こちらの〇〇市で定めているペットの飼養に関するルールの雛型です。
- このように、飼い主が守るべきルールとして何があるのかを事前に決めておくことが重要です。

【ワーク5】参加者同士で話し合ってみよう！

ルールに追加・修正すべき  
項目がないか検討しましょう！



【検討結果の反映】  
検討結果を手順書「様式05-2」に書き込みましょう！

40

- では、ここからワークです。
- 先ほどの〇〇市町村の飼養ルールに追加・修正すべき項目がないかを皆さんで検討しましょう！

【意見交換のポイント】

- 検討においては「教材2-8 意見交換用台紙」に付箋を貼ったり、直接書き込んだりしながら、意見交換を促します。
- 原則は市町村の示すルールに従って対応することが重要ですが、避難所固有のこととして修正・追加すべき項目がないかを確認しましょう。
- 運営ルールの検討にあたっては、災害時には運営スタッフや資材が限られること、ライフラインが復旧していない可能性があることを前提とします。

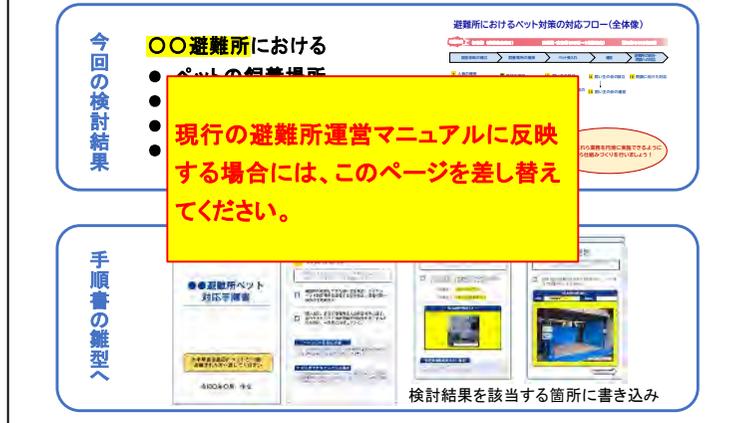
## 4. 今後の検討の流れ

41

- 最後に今後の検討の流れについて確認しましょう。

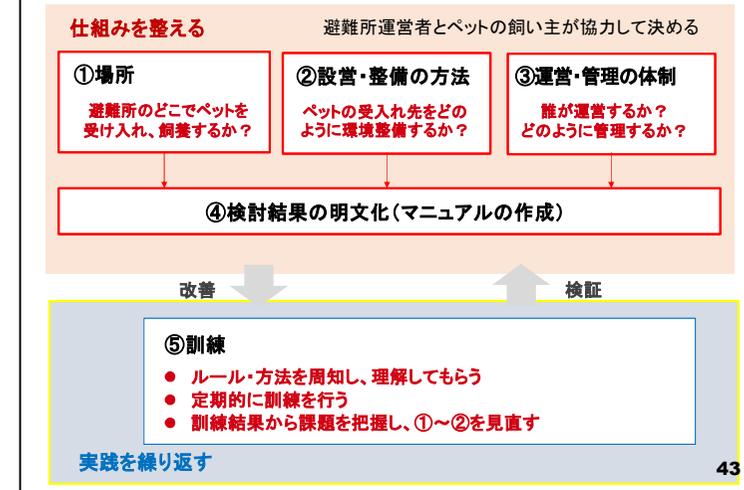
## 検討結果の明文化(マニュアル等の作成)

ワークショップで検討する内容を「〇〇避難所ペット対応手順書」へ書き込み、避難所独自のペット対応手順書を作成しましょう。



- 今回の検討結果は、市町村にて手順書へ反映の上、後日皆さまへ配布します。
- これにより、検討内容が文章として整理され、いつでも確認できるようになります。

## 平時から整えておくべき仕組み



- 本日は、この仕組みを整えるという箇所について①～③を実施しました。
- 今後の作業としては、これら検討した結果を手順書に落とし込む必要がありますが、その作業は市町村で行います。
- 反映したマニュアルはまた皆さんに改めて共有させていただきます。
- 今後はこれら決めた内容について、訓練を行い、実効性を高めていきましょう。

## 「協力+対応スキル」を身につけましょう！

### 訓練の実施



44

- 訓練では、これまでに検討してきた内容をもとに、ペット飼養場所の設営を実際に行ったり、設営した場所で実際にペットを受け入れたりします。
- これらの訓練を通して、検討してきた内容が本当に実現可能かどうかを確認するとともに、実効性を高めるために改善すべき点を明確にすることができます。

## 質疑応答

45

- それでは最後に質疑応答です。
- 何か質問がある方はいますか？
- それでは、これで研修を終わります。お疲れ様でした。



# ペットを飼養する場所の評価目安

評価方法: 適した場所には「○」、適さない場所には「×」、  
対策を実施することで適した場所とすることが可能な場合には「△」を記入してください。

教材2-5

区分	目安となる項目	評価目安					
		●● (場所名)					
飼養の視点	雨や風、日差しがさえぎられること						
	飼い主の居住スペースと比較的近いこと						
	ケージの設置や、柱などへの係留ができること						
避難所運営の観点	鳴き声や臭い、抜け毛が人の生活場所に届かないこと (近隣の住宅等も含む)						
	避難所運営の妨げにならないこと						
	他の避難所利用者とペットとの接触が避けられること						
施設管理の視点	施設の業務再開を阻害しないこと						
	掃除しやすく、現状復帰しやすいこと (備品が汚れたりしにくい)						
点数 (○は10点、△は5点、×は0点)							

最優先の候補場所	
----------	--

代替の候補場所	
---------	--



ペットを飼養する場所の評価目安  
(事務局での評価目安)

評価方法: 適した場所には「○」、適さない場所には「×」、  
対策を実施することで適した場所とすることが可能な場合には「△」を記入してください。

教材2-6

区分	目安となる項目	評価目安					
優先事項 ※優先事項を満たさない場合には、原則としてペットを飼養する場所として利用しない。							
優先事項	避難所内での避難経路の妨げとならないこと						
	施設管理者の許可が得られること						
必要事項							
飼養の視点	雨や風、日差しがさえぎられること						
	飼い主の居住スペースと比較的近いこと						
	ケージの設置や、柱などへの係留ができること						
	動物の種類ごとにパーテーションなどで区画できること						
	飼い主以外の者への立入規制が行いやすいこと						
	水回りが近いこと						
	鉄道・幹線道路などから離れた静かな場所であること						
	季節・気候により、屋外と屋内の使い分けができること						
避難所運営の観点	鳴き声や臭い、抜け毛が人の生活場所に届かないこと (近隣の住宅等も含む)						
	避難所運営の妨げにならないこと						
	他の避難所利用者とペットとの接触が避けられること						
	逸走防止対策ができること						
施設管理の視点	施設の業務再開を阻害しないこと						
	掃除しやすく、現状復帰しやすいこと (備品が汚れたりしにくい)						
点数 (○は10点、△は5点、×は0点)		○	○	○	○	○	○

最優先の候補場所

代替の候補場所

ペットを飼養する場所の評価目安  
(事務局での評価目安)

評価方法: 適した場所には「○」、適さない場所には「×」、  
対策を実施することで適した場所とすることが可能な場合には「△」を記入してください。

教材2-6

区分	目安となる項目	評価目安					
		体育館棟2階 図書館横ベランダ	1階 図工室	北館 自転車置き場	体育館棟3階 中屋上	プール附属棟 更衣室	西館 昇降口
優先事項 ※優先事項を満たさない場合には、原則としてペットを飼養する場所として利用しない。							
優先事項	避難所内での避難経路の妨げとならないこと	○	○	○	○	○	○
	施設管理者の許可が得られること	○	○	○	○	○	×
必要事項							
飼養の視点	雨や風、日差しがさえぎられること	△	○	△	△	○	△
	飼い主の居住スペースと比較的近いこと	○	○	△	△	×	○
	ケージの設置や、柱などへの係留ができること	△	△	△	△	○	○
	動物の種類ごとにパーテーションなどで区画できること	○	○	○	○	○	○
	飼い主以外の者への立入規制が行いやすいこと	○	△	○	○	○	△
	水回りが近いこと	○	○	○	○	○	○
	鉄道・幹線道路などから離れた静かな場所であること	○	○	○	○	○	○
	季節・気候により、屋外と屋内の使い分けができること	○	○	○	○	○	○
避難所運営の観点	鳴き声や臭い、抜け毛が人の生活場所に届かないこと (近隣の住宅等も含む)	○	○	○	○	○	△
	避難所運営の妨げにならないこと	○	△	△	○	○	△
	他の避難所利用者とペットとの接触が避けられること	△	△	○	○	○	○
	逸走防止対策ができること	○	○	○	○	○	○
施設管理の視点	施設の業務再開を阻害しないこと	○	△	○	○	○	△
	掃除しやすく、現状復帰しやすいこと (備品が汚れたりしにくい)	○	△	○	○	○	○
点数 (○は10点、△は5点、×は0点)		145	130	140	145	150	不可

最優先の候補場所	プール附属棟 更衣室
----------	------------

代替の候補場所	体育館棟2階 図書館横ベランダ、 体育館棟3階 中屋上
---------	--------------------------------



(3) 講座を通じて学んだことについて、自由にお書きください。

### 3. 講座内容の充実のためのご意見について

(1) 研修・講座内容について改善したほうが良いことがあれば、自由にお書きください。

(2) 今後、講座で学んでみたいことがあれば、自由にお書きください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

A3以上のサイズで  
ご利用ください

## 【ワーク1】飼養場所の選定

飼養場所の候補 その1	
避難所運営 の視点	
ペット飼養 の視点	
施設管理 の視点	
ペットを飼養する場所としての適性	適している ・ 適していない

## 【ワーク1】飼養場所の選定

飼養場所の候補 その2	
避難所運営 の視点	
ペット飼養 の視点	
施設管理 の視点	
ペットを飼養する場所としての適性	適している ・ 適していない

## 【ワーク1】飼養場所の選定

飼養場所の候補 その3	
避難所運営 の視点	
ペット飼養 の視点	
施設管理 の視点	
ペットを飼養する場所としての適性	適している ・ 適していない

## 【ワーク2】 ペットの経路の設定と飼い主受付の選定

<p>受付の場所</p>	
<p>経路設定 での留意点</p>	

### 【ワーク3】飼養場所の設営

設営方法	1 2 3 4 5 . .
------	---------------------------------

### 検討メモ

--

## 【ワーク4】 資材の確保

<b>必要な資材</b>	<b>【飼養場所の設営】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li></ul>	<b>【飼い主受付の設営】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li><li>・</li></ul>
--------------	--	---

## 検討メモ

## 【ワーク5】 飼い主の受付

基本事項	
受 付	
運 営	
清 掃	
管 理	

テーマ③：〇〇避難所におけるペット同行避難者の受入・運営訓練

## 実施要領（案）

### 1 テーマ概要

#### (1) テーマ

〇〇避難所におけるペット同行避難者の受入・運営訓練

#### (2) 目的

「テーマ② 〇〇避難所におけるペットの受入れ・管理の体制づくり」のワークショップで整理した体制や手順に基づき、飼い主受付と飼養場所の設営を行い、ペット同行避難者を受け付け、飼養場所へ案内し、ペットを収容するまでの流れを、実践的に確認することを目的とする。

#### (3) 内容

ペットの飼養場所や飼い主受付の設営を行い、ペットの経路を確認するとともに、ペット同行避難者を受け付け、飼養場所へ案内し、ペットを収容するまでの流れを、具体的な行動として確認する実働訓練を行う。

### 2 開催概要

#### (1) 日時

〇〇〇〇年〇月〇日（日）午前〇時～午前〇時（2時間）

#### (2) 場所

〇〇小学校

#### (3) 対象者

〇〇町の住民（特に飼い主）、〇〇町内会、△△小学校職員、市町村職員など

#### (4) 形式

実働訓練形式（活動の実施）

#### (5) 主催

〇〇〇市町村

#### (6) その他

飼い主が飼養する犬〇頭

（必要に応じて。その他の動物種は避けた方が良いです。）

### 3 スケジュール

時間	所要※	累積※	内容
XX:XX - XX:XX	1	1	開会
XX:XX - XX:XX	84	85	【実働訓練】 ペット同行避難の受入れ・運営訓練
XX:XX - XX:XX	10	95	休憩
XX:XX - XX:XX	24	114	【講義・意見交換】 訓練の振り返り
XX:XX - XX:XX	1	120	閉会

※単位は「分」

### 4 訓練計画

	訓練項目	所要 時間※	訓練内容
1	設営体制の 確立	1	避難所に集まったペットの飼い主に設営作業への協力を 依頼し、ペットはできるだけ他の避難所利用者から離れた 場所に一時的に係留する。 その後、作業全体を把握し、分担表に基づいて役割を決定 する。
2	被害状況の 確認	4	飼養場所・ペットの経路、飼い主受付の場所の予定位置に ついて、地震による被害がなく、予定どおり設営可能かを 確認する。 その結果を踏まえ、避難所開設・運営の責任者に対し、予 定の場所に飼養場所を設営する旨を報告し、連携を図る。
3	飼養場所の 設営	35	必要な資材を準備し、事前の計画に基づいて飼養場所を 設営する。 併せて飼い主受付の設営も行い、設営完了後は避難所開 設・運営の責任者に報告して受付開始の旨を伝える。
4	飼い主受付	25	飼い主受付の開始を周知し、案内表示を設置します。 検討した受付手順に沿って必要事項の聞き取りと注意事 項の連絡を行い、飼養場所へ収容する。 受付後は、適宜、避難所受付と情報を共有し、また、避難 所開設・運営の責任者に報告して連携を図る
5	運営体制の 確立	5分	ペットの飼い主同士で「飼い主の会」を立ち上げ、組織的 に飼養管理を行うため、飼い主同士で役割を分担する。

※単位は「分」

以上

# 〇〇避難所におけるペット 同行避難者の受入・運営訓練

〇〇避難所においてペットを受け入れ、  
管理するための訓練を実際にやってみましょう！

第3弾

今回は実際に訓練で避難所にペットの飼養場所を設営します！

〇〇〇〇年  
〇月〇日(日)  
〇〇時 ~ 〇〇時

対 象 〇〇町内会(住民・関係者)

会 場 〇〇〇小学校  
(愛知県〇〇市〇〇町1-1)

参加費 無料

定 員 〇〇名



## 訓練のイメージ

特にペットを飼っている方、避難所運営に関わる方、是非ご応募ください。

お申込みは、お電話またはメールにて受け付けております。

申込期間 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日(〇)まで

電話:〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

メール:〇〇〇〇〇〇〇@〇〇〇〇〇



### テーマ③：〇〇避難所におけるペット同行避難の受入・運営訓練 カリキュラム

目的	「テーマ② 〇〇避難所におけるペットの受入れ・管理の体制づくり」のワークショップで整理した体制や手順に基づき、飼い主受付と飼養場所の設営を行い、ペット同行避難者を受け付け、飼養場所へ案内し、ペットを収容するまでの流れを、実践的に確認することを目的とする。
対象者	飼い主、避難所運営者（町内会・自治会等）、施設管理者、市町村職員などの関係者
時間	2 時間

セッション		スライドタイトル		所要(分)	
0	開会	-	-	1	1
1	ペット同行避難の受入・運営訓練	1	【タイトル】〇〇避難所におけるペット同行避難の受入・運営訓練	1	84
		2	これまでの取組の振り返り（ペットの受入れ・飼養場所等、受入場所等の設営・整備方法、飼養の運営・管理の体制、検討した結果の明文化）	2	
		3	本日の内容	1	
		4	【章タイトル】ペット同行避難の受入・運営訓練	0	
		5	本日のタイムスケジュール	1	
		6	訓練の目的	2	
		7	想定する災害	2	
		8	訓練の内容	2	
		9	訓練の内容	2	
		10	訓練の内容	1	
		11	【問】 それでは早速、訓練を開始しましょう！	0	
-	【訓練①】 ペットを飼養する場所の設営訓練（移動等を含む）	40			
-	【訓練②】 ペット同行避難の受入訓練の実施	30			
-	休憩	-	休憩	10	10
3	訓練の振り返り	12	【章タイトル】 訓練の振り返り	0	24
		13	【意見交換】 訓練してみて、良かったこと・改善した方がよいことを意見交換しよう！	20	
		14	専門会によるペット飼養場所の評価（獣医師会等による意見）	2	
		15	継続的な改善の重要性	2	
5	閉会	-	-	1	1



避難所におけるペット同行避難対策推進の手引き(テーマ③)

## 〇〇避難所におけるペット同行避難の 受入・運営訓練

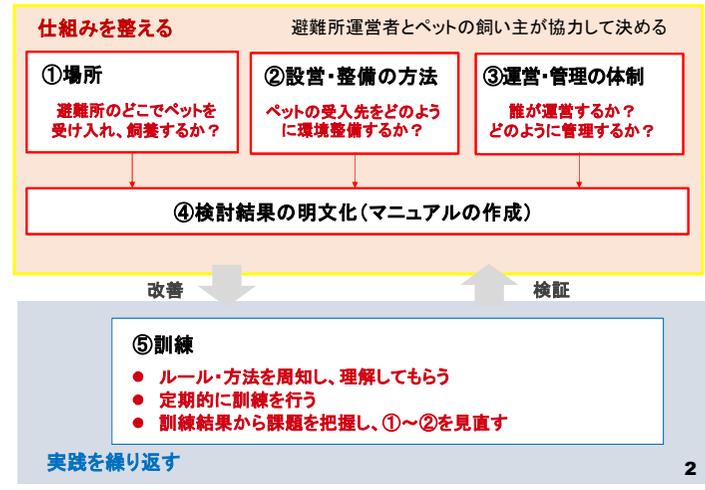
〇〇〇〇年〇月〇日(〇)

XX:XX ~ XX:XX

〇〇避難所

- 皆さま、こんにちは。本日は訓練にご参加いただきありがとうございます。
- 本日は『〇〇避難所におけるペット同行避難の受入・運営訓練』をテーマに、これまで学んできた内容を実際に体験し、動いてみる時間になります。
- “知っている”から“一緒に動ける”へ。その第一歩として、皆さんと一緒に実践的な訓練を進めてまいります。

## これまでの取組の振り返り



- これまでの検討では、ペットの飼養場所を定め、その設営方法や運営体制等について整理してきました。
- 今回の訓練では、それらの内容を実際に確認し、実効性を確保するための課題を把握しましょう。

## 本日の内容

### 1. ペット同行避難の受入・運営訓練

- 本日実施する訓練について
- 「ペットの飼養場所の設営訓練」の実施
- 「ペット同行避難の受入訓練」の実施

### 2. 訓練の振り返り

3

- 本日の訓練は、大きく2つの柱で進めてまいります。
- 1つ目は『ペットの飼養場所の設営訓練』。そして2つ目は『ペット同行避難の受入訓練』です。
- 最後には訓練の振り返りも行います。良かった点、気づいた点、改善すべき点を整理して、今後の避難所運営に活かしていきましょう。

## 1. ペット同行避難の受入・運営訓練

4

- それでは早速始めていきましょう。

## 本日のタイムスケジュール

時刻	所要(分)	実施内容	備考
13:00~13:15	15	訓練の概要説明	目的、想定する災害、訓練の進め方
13:25	(第1部)訓練の実施		
13:15~13:55	40	【訓練①】 ペットを飼養する場所の設 営訓練	① 設営体制の確立 ② 被害状況の確認 ③ 飼養場所の設営
13:55~14:25	30	【訓練②】 ペット同行避難の受入訓練	① ペットの受入対応 ② 運営体制の確立
14:25~14:35	10	休憩	
14:30	(第2部)訓練の振り返り		
14:35~15:00	25	意見交換	

5

- こちらの本日のタイムスケジュールです。
- 時間の制約がある中での訓練になりますので、スムーズな進行のためにも、ご協力をお願いします。

## 訓練の目的

- これまで整理・検討してきた体制や手順に基づき、**飼養場所の設営から、飼い主受付、ペットの受入れまでの流れを実践的に確認**する。
- **役割分担や連携する上での課題を把握し、災害時における円滑なペット同行避難の実現に向けた改善点を明らかにする。**

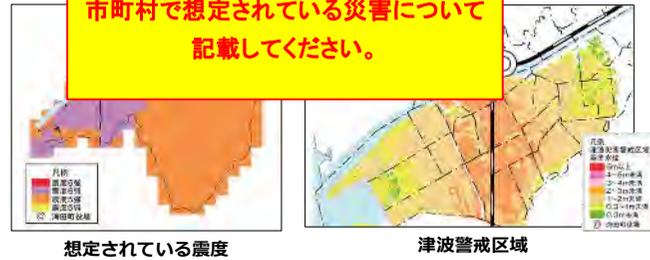


6

- 今回の訓練の目的は、これまで整理・検討してきた体制や手順を、実際の流れの中で確認することにあります。
- 飼養場所の設営から、飼い主受付、ペットの受入れまでの流れを通じて、課題や改善点を明らかにしていきましょう。

## 想定する災害

1. 発生時期: 令和〇年〇月〇日(〇)午後13時00分
2. 震源地: 太平洋沿岸
3. 地震の規模: マグニチュード 8
4. 市内の震度: 最大震度6強
5. 津 (高津波無し)



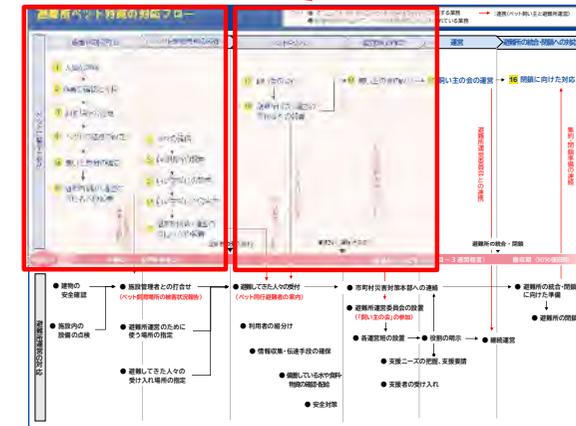
7

(市町村で想定されている災害について記載)

## 訓練の内容

【訓練①】ペットの飼養場所の設営訓練

【訓練②】ペット同行避難の受入訓練



8

- 今回の訓練では、避難所ペット対策の対応フローにおける「ペットを飼養する場所の設営」部分と「ペット同行避難者の受入れ」部分について、実際にやってみようと思います。

## 訓練の内容

### 【訓練①】ペットの飼養場所の設営訓練

訓練	内容
設営体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難所に集まったペットの飼い主に設営作業への協力を依頼し、ペットはできるだけ他の避難所利用者から離れた場所に一時的に係留します。</li> <li>● その後、作業全体を把握し、分担表に基づいて役割を決定します。</li> </ul>
被害状況の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 飼養場所・ペットの経路、飼い主受付の場所の予定位置について、地震による被害がなく、予定どおり設営可能かを確認します。</li> <li>● その結果を踏まえ、避難所開設・運営の責任者に対し、予定の場所に飼養場所を設営する旨を報告し、連携を図ります。</li> </ul>
飼養場所の設営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必要な資材を準備し、事前の計画に基づいて飼養場所を設営します。</li> <li>● 併せて飼い主受付の設営も行い、設営完了後は避難所開設・運営の責任者に報告して受付開始の旨を伝えます。</li> </ul>

9

- まずは『訓練①』として、ペットの飼養場所の設営訓練を行います。
- 訓練では、まず設営体制の確立として、避難所に集まった飼い主に対し設営作業への協力を依頼し、ペットを一時的に係留します。その後、作業全体を把握します。
- 次に被害状況の確認として、ペットの飼養場所・受付場所・ペットの経路の予定位置を手順書をもとに確認し、地震などによる被害がないかを調べ、予定通り設営が可能かを判断します。その結果を踏まえ、避難所開設・運営の責任者へ予定通り設営する旨を報告し、連携を図ります。
- 最後に飼養場所の設営として、検討した手順に沿って飼養場所を設置します。併せて飼い主受付の設営も行い、設営が完了したら避難所開設・運営の責任者へ報告し、受付開始の旨を伝えます。

## 訓練の内容

### 【訓練②】ペット同行避難の受入訓練

訓練	内容
飼い主受付	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 飼い主受付の開始を周知し、案内表示を設置します。</li> <li>● 検討した受付手順に沿って必要事項の聞き取りと注意事項の連絡を行い、飼養場所へ収容します。</li> <li>● 受付後は、適宜、避難所受付と情報を共有し、また、避難所開設・運営の責任者に報告して連携を図ります。</li> </ul>
運営体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ペットの飼い主同士で「飼い主の会」を立ち上げ、組織的に飼養管理を行うため、飼い主同士で役割を分担します。</li> </ul>

10

- 次に『訓練②』として、ペット同行避難の受入訓練を行います。
- 訓練では、まず飼い主受付の対応として、ペットの受入開始を飼い主に周知し、案内表示を設置します。
- その上で、検討した受付手順に沿って必要事項の聞き取りと注意事項の連絡を行い、避難所開設・運営の責任者に報告して連携を図ります。
- 続いて、ペットの飼い主同士で「飼い主の会」を立ち上げ、組織的に飼養管理を行うため、飼い主同士で役割を分担します。



- では、早速訓練を開始しましょう。

<ファシリテータのポイント>

【①目的をうまく共有する】

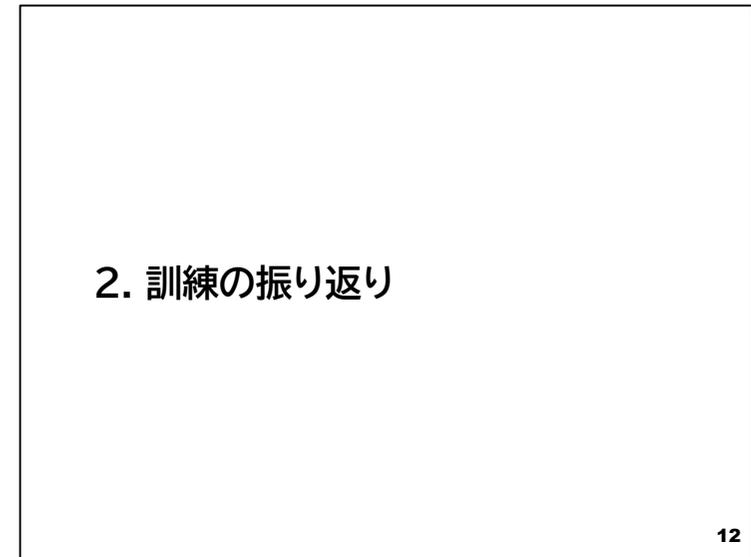
- 今回の訓練はうまくやることよりも、課題を見つけることが成果であると伝えて、失敗・混乱は歓迎という空気を作る。
- (これがあると参加者も本音を出しやすくなります。)

【②手伝い過ぎない】

- つい口や手を出したくなりますが、ぐっと我慢し、参加者同士での相談を促すことが重要です。
- (参加者だけでは回らない部分は改善のポイントになります)

【③具体的に気づきを引き出す】

- 困っていそうな場面では、答えではなく問を出す
- 例:「受付は誰が担当しますか?」「その情報はどこに記録しますか?」
- (自分たちで考えてもらうことで、実際の運営力が身に付きます)



- 皆さん訓練お疲れ様でした。
- では引き続き、訓練の振り返りを行いましょ。

【意見交換】参加者同士で話し合ってみよう！

訓練を実施してみて  
「良かったこと」と「改善した方がよいこと」  
を意見交換しよう！



13

- 訓練を実施して、「良かったこと」と「改善した方がよいこと」を参加者の皆さんで意見交換しよう！

獣医師会

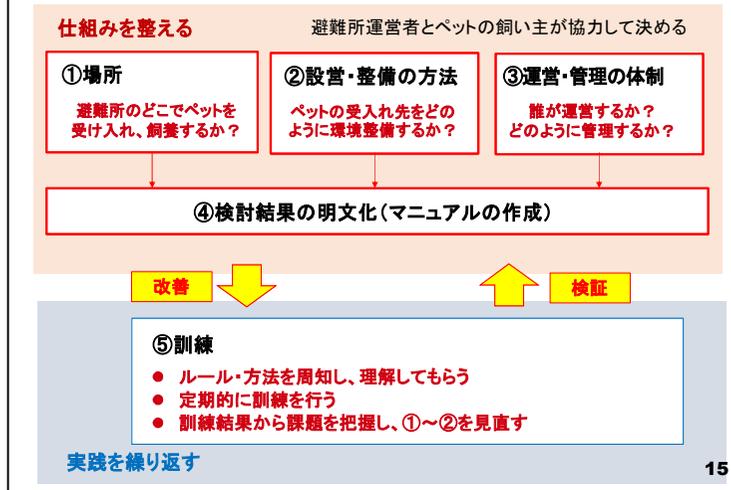
獣医師会等の専門家に参加いただける場合には、訓練について助言をいただきましょう。

〇〇先生

14

- (獣医師の先生等をお呼びしているのであれば)
- 本日は獣医師の先生もお呼びしております。
- 今回、各班で飼養場所を検討いただきましたが、専門会の立場からご意見をいただけますでしょうか？

## 継続的な改善の重要性



- 訓練は一度やって終わりではありません。
- 日常的な訓練の積み重ねこそが、本当に使える体制づくりにつながります。
- 継続的に取り組むことで、避難所の防災力を高めていきましょう。
- それではこれで訓練を終わります。皆さんお疲れ様でした。



**(3) 訓練を通じて学んだことについて、自由にお書きください。**

### **3. 訓練内容の充実のためのご意見について**

**(1) 訓練内容について改善したほうが良いことがあれば、自由にお書きください。**

**(2) 今後、講座で学んでみたいことがあれば、自由にお書きください。**

**以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。**